

地域円卓会議
若狭公民館で考える「学校と地域の連携」の可能性

子どもも大人も楽しい 「学校と地域の連携」



東京都杉並区教育委員会事務局 社会教育主事
(学校支援課 教育連携担当係長)

中曽根 聡

1

なぜ連携が必要か(その視点)

2

- 「いいまちは いい学校を育てる」
 - ・地域コミュニティによる次世代育成
 - ・持続可能な未来への責任
- 「学校づくりは まちづくり」
 - ・自分たちの住む地域のことは自分たちで(当事者意識)
 - ・(学校)支援活動を地域の共通課題とした社会関係資本の蓄積と地域活性化

～井出教育長講演(2014.12.13)より

2

杉並区教育委員会の取組

3

- 家庭・地域・学校の共通目標
 - ・「教育ビジョン2012」(策定委員会)
 - ・「共に学び共に支え共に創る 杉並の教育」
 - 家庭・地域・学校、それぞれの役割と立ち位置の確認
 - 連携促進のための各種施策・事業
 - ・家庭・・・PTA活動支援、家庭教育事業など
 - ・学校・・・地域運営学校、学校支援本部、学校司書など
 - ・地域・・・すぎなみ大人塾、地域教育推進協議会など
- 【楽しくなければ続かない・広がらない】

3

教育ビジョン2012

4

- 策定委員の方々がビジョンに込めた願い
 - ・「子どもたちが順調に成長していくには、人とのかかわり・社会とのかかわり・自然とのかかわりが欠かせません。その機会と場が減っている。ならば大人全体の責任で、意図的・計画的にしつらえるほかない。ビジョンには、そうした趣旨が込められています。」
- ～策定委員会委員長・大学教授
- ・「私自身は今後、多様な立場・世代の区民のみなさまが杉並区の教育について考え、教育に関わる場作りやきっかけ作りをしていきたいと思えます。区民のみなさま一人ひとりが杉並区の教育を創る一員です。共に学び、共に支え、共に杉並の教育を創りましょう。」

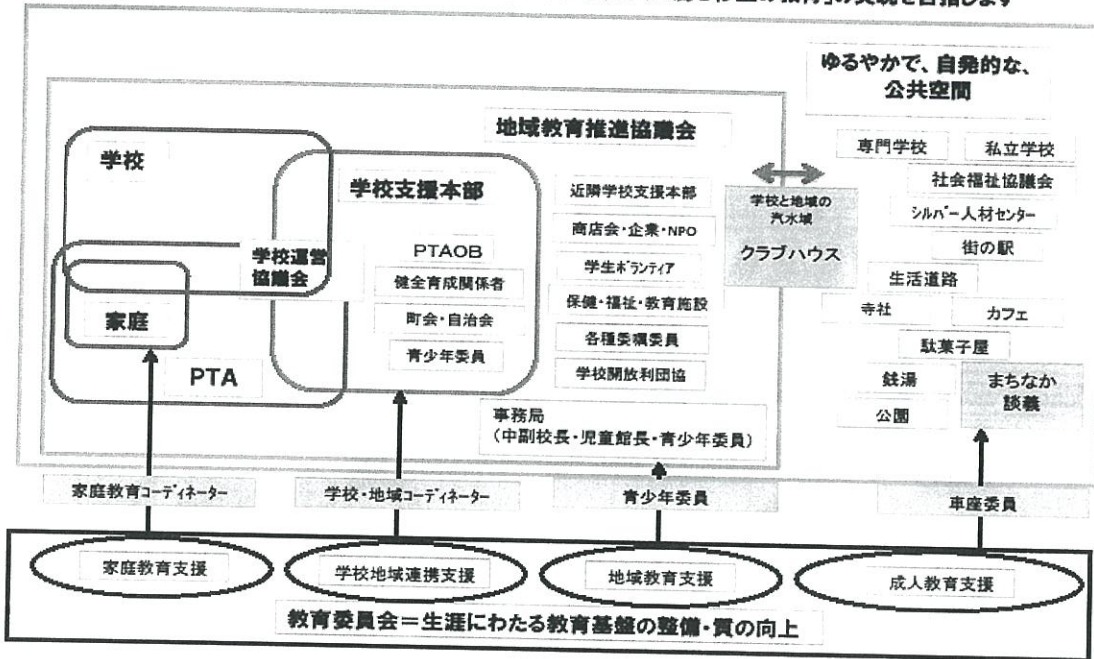
～策定委員会委員・公募区民(大学院生)

4

家庭・地域・学校、それぞれの役割と立ち位置の確認

5

「かかわり」と「つながり」を重視して、「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」の実現を目指します



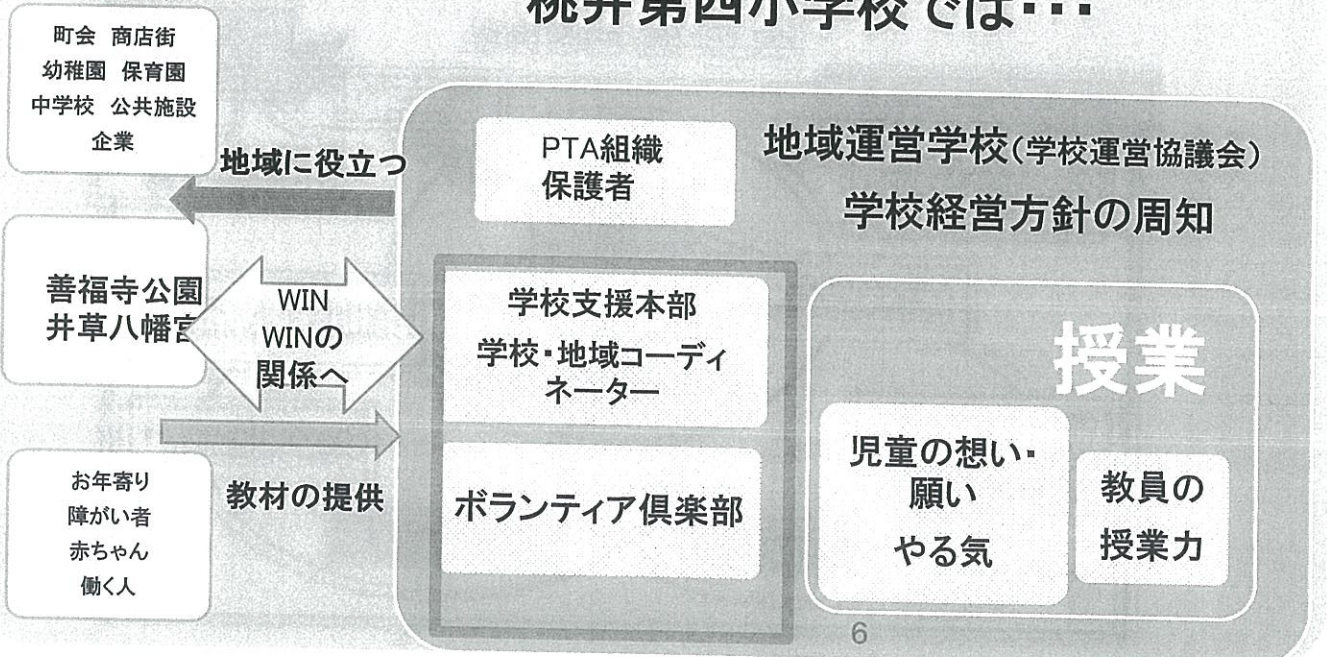
5

「それぞれの役割と立ち位置の確認」 たとえば、

6

地域

桃井第四小学校では...

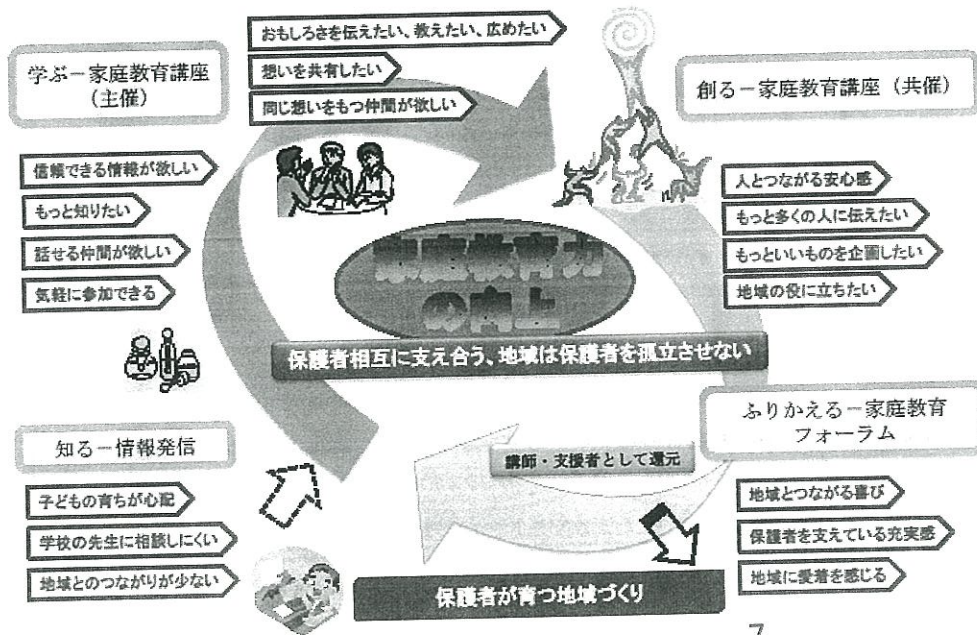


6

連携促進のために(家庭)

興味

家庭教育支援の充実に向けた取組み

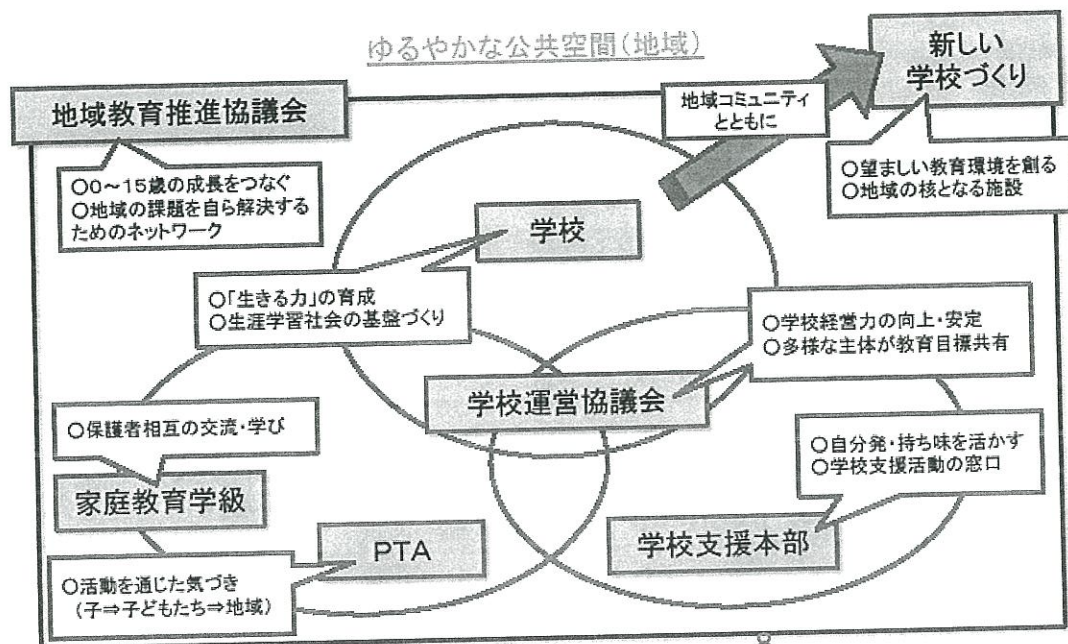


7

連携促進のために(学校)

開く

学校教育の展開イメージ



8

地域運営学校(コミュニティスクール)とは

9

- 制度の概要
 - ・保護者や地域住民が学校運営に参画
 - ・学校運営協議会(地教行法16年改正)を置く学校
- 主な役割
 - ・校長の作成する学校運営の基本方針承認
 - ・教職員の任用に関して、教育委員会に意見
 - ・学校運営について、教委及び校長に意見
- 学校運営協議会の委員(教育委員会の非常勤職員)
 - ・校長を含め12名以内(学経、校長推薦、公募)
 - ・概ね月一回の会議開催
- 指定校数
 - ・小学校17校/中学校10校
 - ・平成33年度全校指定目標(杉並区総合計画)

9

地域運営学校 成果検証調査(中間報告)より

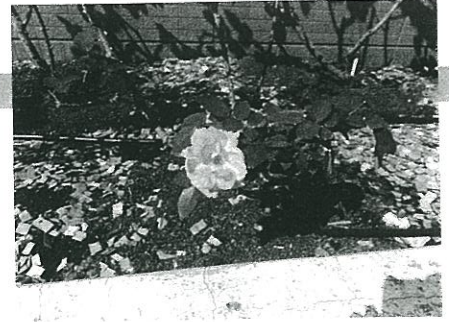
10

- 地域運営学校に指定された学校の児童生徒は、「自己効力感(自らの成長への期待感)」が高い。
- 地域運営学校に指定された学校の教員は、自校児童生徒を肯定的に評価している割合が高い。
- 地域運営学校に指定された学校の教員は、自校校長がリーダーシップを発揮していると評価している割合が高い。
- 地域運営学校に指定された学校は、学校の運営に保護者の力を積極的に活用している。
- 地域運営学校に指定された学校の住民や保護者は、学校の運営支援に参加している。
- 学校内外からのソーシャルサポートが高い学校は、教員の抑うつ尺度からみたストレスが低い。

9

学校支援本部とは

11



- 地域住民によるボランティア集団
 - ・保護者OBOG、同窓会…
- 学校の求めに応じて学校を支援
 - ・学校支援本部代表者と校長の協定
 - ・多様な活動(教育課程内から学校外の教育活動まで)
- 地域の力を学校へつなぐ役割
 - ・日々“つなぐ”力を高めて
 - ・地域住民との信頼を育み
- 新しい仕組みとして全国拡充中
 - ・国の目標100%設置(杉並は22年度末に全小中学校設置)
 - ・「学校支援本部ってなんだろう新聞」年3回3万部発行

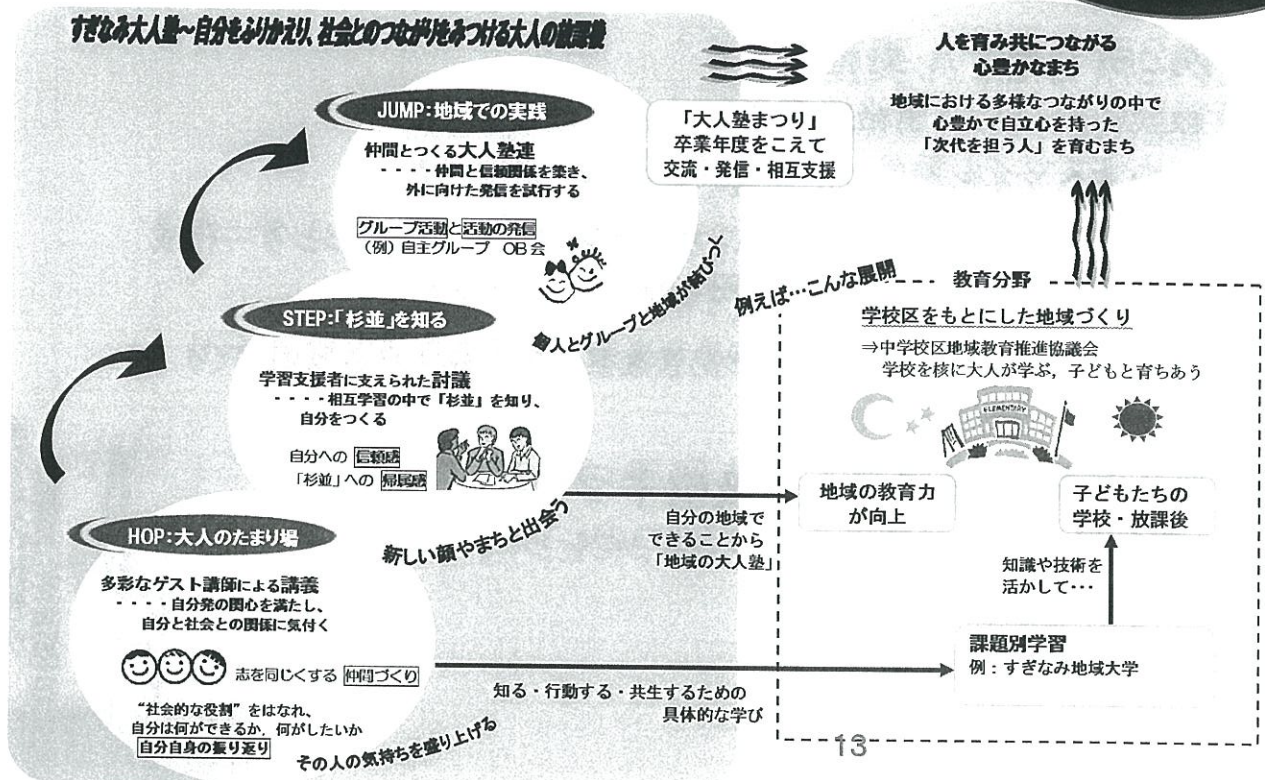
11

学校・地域コーディネーター

12

- 各学校支援本部に配置(3名程度)
 - ・研修や連絡学習会に参加し資質向上
- 主な役割
 - ・本部の各取組や関係者をつなぐ
 - ・学校との連携窓口、など
- 他の役割と兼務の方もいます
 - ・PTA
 - ・学校運営協議会委員
 - ・青少年委員(小学校区単位に1名)





すぎなみ大人塾

- 自分をふりかえり、社会とのつながりを見つける大人の放課後
 - ・年間15回程度で活動と学びの循環／学習支援者及び補助者
 - ・月曜午前コース「個性を活かす「みせ」びらき」(60～70代)
 - ・土曜午前コース「大人のまちの楽しみ方」(30～40代)
- 多様な卒業生活動
 - ・七夕はりぼて作り／コミュニティキッチン／すぎなみのたね…
 - ・大人塾連(卒業年度をつなぐネットワーク)
 - ・大人塾まつり(テーマ「つながりの発見、それを育てる」)
- 学校や子どもとの連携
 - ・ゲスト講師や学校運営協議会委員へ
 - ・だがしや楽校の開催、子どもの運営参加
 - ・土曜授業、余裕教室と連携する企画づくり



地域教育推進協議会

15

□ 区内2所でモデル実施

- ・「懇談(83～)」⇒「連絡協議(99～)」⇒「推進協議」へ
- ・あまぬまスマイル委員会(天沼中学校区、2010～)
チャリティ事業推進/スマイルバッチ波及展開/イベントカレンダー作成
- ・高円寺うきうきプロジェクト(高円寺地区、2013～)
商店街事務所が拠点/高円寺ゆめ音楽祭/安定的な自主財源づくり

□ モデル地区事業検証と普及冊子づくり

- ・「あなたの地域の教育力を高める8つのヒント」
- ・冊子を活用した学習会の開催



15

連携促進のために(公共空間)

16

□ われらプロジェクト(2000～)

- ・ひきこもり、冒険遊び場、総合学習の三課題協働のプロジェクト
- ・車座委員会(社会教育事業推進委員会)設置へ

□ 杉並チャリティ・ウォーク(2002～)

- ・未来をつなぐ子どもたちのために楽しく歩いてボランティア
- ・貯まったお金は、子どもたちの活動を推進する団体へ助成

□ YS市庭コミュニティ財団(2013～)

- ・「すぎなみ大人塾」スタート時の助言者が設立
- ・大人のだがしや楽校交流プロジェクト実施
- ・「だがしや楽校的かわり大図鑑」発行

三方よし

【面白がって事業を起こす人たちのフォロアーとなる】

16

家庭教育支援の充実に向けた取り組み

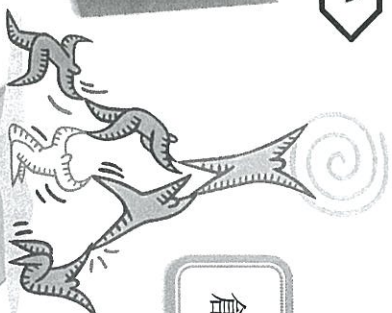
学ぶ—家庭教育講座
(主催)

おもしろさを伝えたい、教えたい、広めたい
想いを共有したい
同じ想いをもち仲間が欲しい

創る—家庭教育講座 (共催)

信頼できる情報が欲しい
もっと知りたい
話せる仲間が欲しい
気軽に参加できる

人とつながる安心感
もっと多くの人に伝えたい
もっといいものを企画したい
地域の役に立ちたい



家庭教育力の向上

保護者相互に支え合う、地域は保護者を孤立させない

知る—情報発信

子どもの育ちが心配

学校の先生に相談しにくい

地域とのつながりが少ない

講師・支援者として還元

ふりかえる—家庭教育
フォーラム

地域とつながる喜び

保護者を支えている充実感

地域に愛着を感じる

保護者が育つ地域づくり



すぎなみ大人塾～自分をふりかえり、社会とのつながりを見つける大人の放課後

JUMP:地域での実践

仲間とつくる大人塾連
・・・仲間と信頼関係を築き、
外に向けた発信を試行する

グループ活動と活動の発信
(例) 自主グループ OB会



STEP:「杉並」を知る

学習支援者に支えられた討議
・・・相互学習の中で「杉並」を知り、
自分をつくる



自分への「信頼感」
「杉並」への「帰属感」

HOP:大人のたまり場

多彩なゲスト講師による講義
・・・自分発の関心を満たし、
自分と社会との関係に気付く



志を同じくする仲間づくり

“社会的な役割”をはなれ、
自分は何ができるか、何がしたいか
自分自身の振り返り

その人の気持ちを盛り上げよう

「大人塾まつり」
卒業年度をこえて
交流・発信・相互支援



人を育み共につながる
心豊かなまち

地域における多様なつながりの中で
心豊かで自立心を持った
「次代を担う人」を育むまち



例えば...こんな展開... 教育分野

学区区をもとにした地域づくり

⇒ 中学校区地域教育推進協議会
学校を核に大人が学ぶ、子どもと育ちあう



地域の教育力が
向上

子どもたちの
学校・放課後

自分の地域で
できることから
「地域の大人塾」

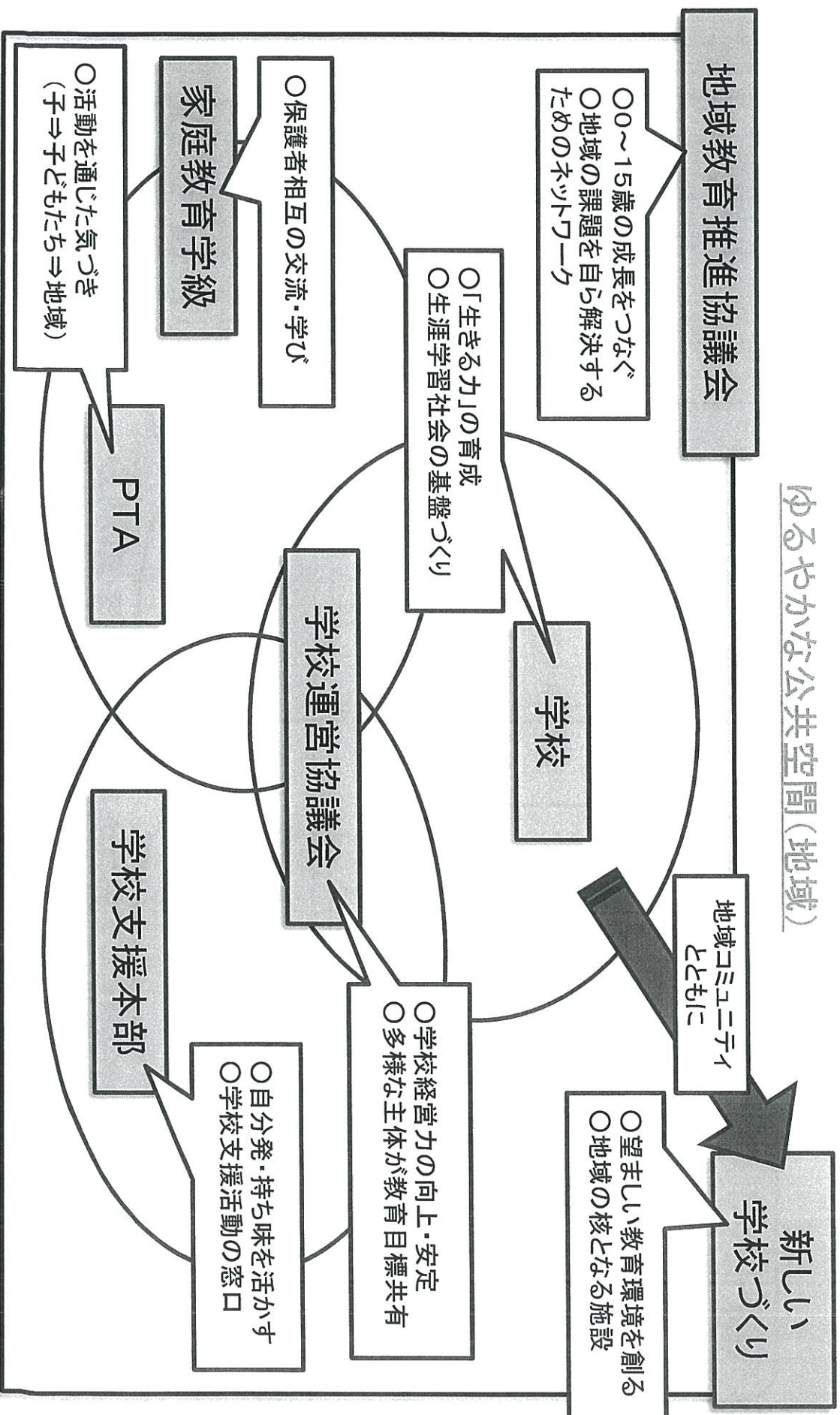
知識や技術を
活かして...

課題別学習
例：すぎなみ地域大学

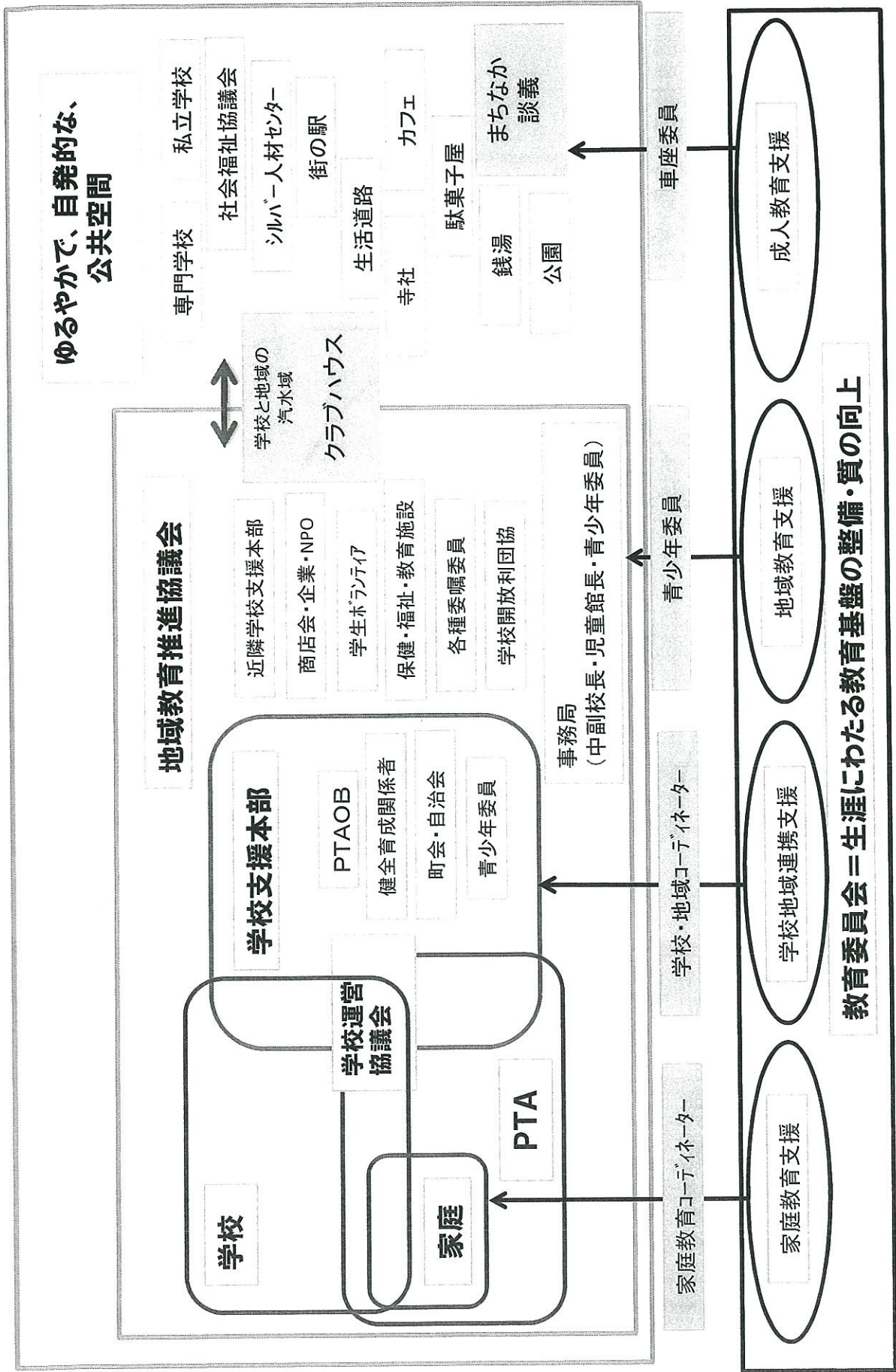
知る・行動する・共生するための
具体的な学び

学校教育の展開イメージ

ゆるやかな公共空間(地域)



「かかわり」と「つながり」を重視して、「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」の実現を目指します



取組 5 地域における「特別なニーズ」を把握するための取り組み

■ 地域の保護者向けセミナーを開催し、家庭とのアクセス方法を検証

地域における家庭の状況を把握し、保護者を取り組みに巻き込むために、小中学生に対する学習支援と並行して、保護者向け子育て勉強会を開催

学習支援と並行し、家庭における保護者の教育力の向上と、地域における学習支援サポート人材の発掘と育成の目的を合わせ「子育て勉強会」を開催した。実施は地域 NPO との連携で実施。

◆[研修内容]

時期	実施内容	日時
第1回	塾いらずの高校入試対策と学校理解 ・今どきの中学生の動向 ・高校入試に必要なこと	1/8(土) 15:00-16:30
第2回	家庭での子ども学習支援 ・家庭教育に必要なこと ・学びの段階(守破離)	1/25(土) 15:00-16:30
第3回	子育てお母さんの困った時の裏ワザガイド ・ケース会議 ・家庭・地域でできること	2/7(日) 15:00-16:30


◆[配布したチラシ]

平成26年度文部科学省事業「学校と地域の新しい連携体制構築のための実証研究事業」/平成26年度若狭公民館家庭教育学級
参加費無料

子育て勉強会

～ 子育てをとおして豊かな時間を ～

学校の勉強についていけない
家庭学習の習慣付けができない
病気療養で勉強に困っている
悩んでいるけど相談できる人がいない
塾に通っているが成績があがらない
つい感情的になってしまい子供と話すことができない
高校入試についてもっと詳しく知りたい
でも誰に聞いたらいいか、...



塾講師経験8年、就労訓練講師3年、民間経験10年の経験をふまえてご家庭での勉強相談から県内進学相談を含めた勉強会です

何か一つヒントをお持ち帰り頂ければ光栄です

回	【第1回】	【第2回】	【第3回】
日時	平成27年1月18日(土) 15:00-16:30	平成27年1月25日(土) 15:00-16:30	平成27年2月7日(日) 15:00-16:30
内容	塾いらずの高校入試対策と学校理解 ・ 今時の中学生 ・ 高校入試に必要なこと	家庭での子ども学習支援 ・ 家庭教育に必要なこと ・ 学びの段階(守破離)	子育てお母さんの困った時の裏ワザガイド ・ ケース会議 ・ 地域でできること
講師	佐渡山 要	佐渡山 要	佐渡山 要・具志 廉人
定員	10名	10名	15名
会場 問合せ 諸注意	若狭公民館(那覇市若狭2丁目12-1) TEL 098-917-3446 ※駐車場がございません。恐縮ですが公共交通機関あるいは民間駐車場をご利用ください。		

----- キリトリ提出 --- FAX 098-869-8624 --- メール info@cs-wakasa.com ----- いずれかでご提出ください -----

【参加希望を()に記入】 ○参加 ※遅刻 ×欠席	第1回() 第2回() 第3回()
【お名前】	(氏名) (フリガナ)
【連絡先】	(自宅) (携帯電話)

チラシ配布

連携校 4 校

学習支援参加家庭

(約 500 枚)

参加者数

第1回 11名

第2回 13名

第3回 6名

第1回 平成 27 年 1 月 18 日(日)

【第 1 部】講師紹介・セミナーの目的

・講師自己紹介 ・セミナー開催の目的・参加者の受講目的の確認

【第 2 部】塾いらずの高校入試について

・高校入試の偏差値などの数値化の仕組みを知り、その上で家庭でできる支援について知る

配布資料

■講師資料

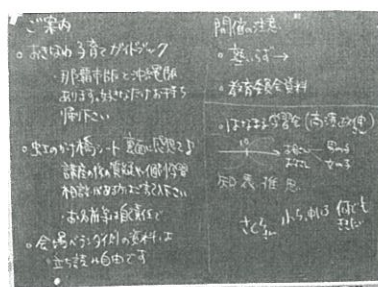
[資料 1] 学習環境補助カイカ堂「学習アシスタント養成講座」概要

[資料 2] 【参考資料】『第 7 回九州沖縄地区子ども支援ネットワーク交流学習会』配布資料

[資料 3] 【参考資料】『おきな子ども支援ガイドブック』(2013 年那覇市版)

[資料 4] 【参考資料】『NPO 学習環境補助カイカ堂だより』(第 1 号)

【研修の様子】



【受講後の感想・アンケート】

● 小学校の間の勉強のやり方と中学以降のやり方では、違うことを知る事が出来て良かったです。私自身も間違った声かえをしているような気がして子どもに矛盾点を指摘されたりします。出来れば塾に行かなくても学力に特に問題がなければ、行かせない状況で中学生生活を過ごさせたいと思います。でも本人が希望すれば考えます。

● 宿題やがんばりノートで「出来る」ようにして学校に送り出していることが返って居眠り等の学習態度の悪さの原因になり先生に嫌われる等に繋がってしまう。今後、うちの子がやばいな一とっていましたが、、、「先生もしくはお友達のお手伝いをしてあげたら 助けてあげたら」という視点を子ども達に与えてみようと思いましたので、今日来て良かったです。

● 本土出身なので、中学校のことなどが知る事ができて良かったです。日々、高校入学のための中学生生活を辛い生活にしないように親も学ばなくてはいけないなと思いました。頼れるカイカ堂さんを会えて安心しました。

● 子ども本人は現在放課後の遊び、地域での活動等で楽しいと感じているので、今後の勉強にも身を入れてもらいたいので、気持ちの切り替えの持っていくかたも親としては悩み中。

● 沖縄の子ども達を変えていこうという気持ちは嬉しかったです。特に若狭は父兄も一部しか学習や子ども達への見守りがうすい地域だと感じます。親も変わらなければ子どもも変わらないと感じております。

● どのような指導をしたら自立する子になりますか？今日の内申書の話は非常に為になりました。

第2回 平成 27 年 1 月 18 日(日)

【第 1 部】 本日セミナーの目的

・セミナー開催の目的・参加者の受講目的の確認

【第 2 部】 家庭での子どもの学習支援

「勉強ができない理由」の分析を正確にすることで、支援方法や解決方法が変わることを知る

【休み時間】 [食育体験] 子どもの自立を促す“味噌玉”体験

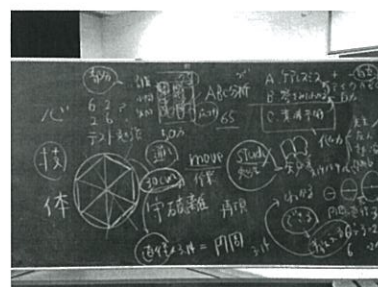
配布資料

■ 講師資料 ※確認中

[資料 1]

[資料 2]

[研修の様子]



[受講後の感想・アンケート]

- 学校のテストが概ねできるので子ども自身が安心しきっています。これをどう気を抜かずにと、思ってもらえるのが課題です。自分が児童であれば勉学に前向きになれるようなお話でした。この力をうまく我が子に伝えられるのか問題。
- 子どもがどのタイプか知る事、親子でお互い自分を見つめる時間を作ってみようと思いました。その上で勉強についてどう考えているのか、「学ぶ」意欲が出るように話し合っていきたいと思います。とてもためになる勉強会でした。どうもありがとうございました。次回も楽しみです。第 3 回目よろしく願いたします。
- 三男が自学自習を30分程度できるようにしたいので、未就学の学習支援で情報交換シェアしましょう。
- 中1・2、成績が良くて那覇高校の推薦を受けたが推薦内定が来週末曜日29日だが、中3の成績、テストが悪く合格出来ないとわれ、2・3日前から塾に通っている。社会の(1~3年生)が分からず、どう勉強していいか分からない。本人も困っている。
- 心と身体の状況で、学習に大きく影響する事は分かりますが、いつもどのような声かけが子どもにとって良いのか悩みます。友人間のトラブルや心配事など、子どもから相談される事がありますが、時々助言したことが正しいのか迷う事があります。
- とても参考になり、学校では子どもひとり一人に気を配ることが出来ない。「他力」がとても必要だと思います。
- とても面白くなりました。私も子どもがいないのでよその子との付き合いしかありませんが、子ども対象の講座やワークショップをする際に「いろんなタイプの子がいてそれに合ったアプローチがある」ということを忘れずにいたいなあと思いました。大人である自分にとっても成長するためのヒントがたくさんでした。ありがとうございました。

資料 7

第3回 平成27年2月7日(日)

【第1部】講師紹介・セミナーの目的

・講師自己紹介 ・セミナー開催の目的・参加者の受講目的の確認

【第2部】ケース会議:子育てお母さんの困った時の裏ワザガイド

- ・地域にある様々な支援団体や支援人材について知ることで、家庭と地域の繋がりを感じる
- ・地域全体でできることを考える

配布資料

■講師資料

[資料1] 学習環境補助カйка堂「学習アシスタント養成講座」概要

[資料2] 【参考資料】『おきなわ子ども支援ガイドブック』(2013年那覇市版)

[資料3] 【参考資料】『NPO 学習環境補助カйка堂だより』(第1号)

[研修の様子]



[受講後の感想・アンケート]

資料 8

[学校支援本部わかさプラットフォーム] 概要案

○目的：

若狭地域にある学校と地域の連携を促すための取り組みを推進・継続発展させる

○内容：

- ・若狭エリアの学校地域連携を促進するためのヒト・モノ・カネを集積・発信する

○体制

- ・実行委員会を立ち上げる？
- ・地域コーディネーター1名配置
- ・カバーする学校(3小学校・2中学校・1高校)
- ・年間200万円を捻出する基金の創設

○実施すること

[基金を創設するための事業]

※お金を生み出せる取組を考える

- ・わかさエリアチャリティーウォーク(参考：杉並チャリティーウォーク)
- ・その他、アイデア出す

[基金を活用して取り組む事業]

- ①生き方先生キャラバン
- ②公民館学習支援
- ③出前授業用人材×プログラムバンクづくり

※初年度は、事業の立ち上げをカバーするために助成金の取得も検討する。

未来をつなぐ子どもたちのために

～楽しく歩いて ボランティア～

杉並チャリティー・ウォーク2015

企 画 書

実施日 2015年5月31日(日)

10:00開始 15:00終了

雨天決行

主 催 特定非営利活動法人 未来をつなぐ子ども資金
企画・運営 杉並チャリティー・ウォーク2015実行委員会

共 催 社会福祉法人杉並区社会福祉協議会(予定)
後 援 杉並区(予定)
杉並区教育委員会(予定)
杉並区立中学校PTA協議会(予定)
杉並区立小学校PTA連合協議会(予定)



杉並チャリティー・ウォーク公式キャラクター
「楽ちゃん」

イベントの概要

杉並チャリティー・ウォークは、「楽しく歩いて ボランティア」をスローガンに、市民がワンコインで参加できる“楽しいチャリティーイベント”です。

設定したコースを歩く皆さまの参加費（500円、小学生以下は100円）が、ボランティアグループやNPOを支援するチャリティー資金となります。また、市民活動を支援する資金づくりばかりでなく、コースを歩くことで参加者の皆さまが都会の中の自然や史跡など身近な地域に親しめるよう企画します。

私たちは、よりよい「まちづくり」を目指して、住民同士、さらには住民・行政・企業間の連携の充実を図り、商店街や町会・自治会・地域団体等にもご協力をいただき、参加者と地域との接点をつくって参ります。実施に際しての企画・運営は一般募集による実行委員会で行います。（昨年の実績については別紙杉並チャリティー・ウォーク 2014 実施報告書をご覧ください。）

イベントの目的

杉並区には、より良い社会環境の実現を願ってしかも生きる喜びをもってボランティア活動に力を尽くす方々があります。しかし、その活動のほとんどは自らの資金または特定の企業の支援で賄われており、いつか活動資金が枯渇してしまう恐れがあります。ところが、市民のためのボランティア活動を市民自身が支援するという循環の流れがあれば、より良い社会づくりの永久機関となり得ます。「杉並チャリティー・ウォーク」は、この循環の流れを実現するための市民による資金作りのチャリティーイベントです。

杉並チャリティー・ウォークは、2001年のボランティア国際年から始まり今年で15回目になります。これまでに市民からのチャリティー資金により、延べ72団体に527万円の助成を行っています。

支え合うよろこびが循環するしくみを杉並区に定着させるために、ぜひご協力をお願いします。

本年のイベント内容

(1) ウォーキングコース

コースは、小学生を含む参加者の皆さんが安全に楽しく歩ける約6kmの道を選びます。コース途中にあるチェックポイント（以下、CPと省略）ではゲームや催し物を行い、ゴール地点では抽選会等の楽しい企画を盛り込んで、多くの市民の参加を促します。今年度は荻窪駅周辺からスタートし、妙正寺公園、桃井原っぱ広場を通り、井草の森公園をゴールとするコースを検討しています。

(2) 実施日

2015年5月31日（日）10:00から15:00（雨天決行）

(3) 目標

①参加者 1,000人

②チャリティー資金 30万円

(4) チャリティー資金の提供方法について

集められたチャリティー資金は全額、地域における子どもの健全育成活動に携わっている団体への助成資金となります。その助成先・金額は、2015年7月頃から支援希望団体を募集し、公募委員を含む選考委員会を組織して9月に公開選考会を開いて決定します。1年後に公開で報告会を開催し、支援を受けた活動についてその成果を一般市民と共有します。



参加対象

杉並区内に在住・在勤・在学そして関心ある方どなたでも。

企業の地域連携行事、健康保険組合行事など職場としての参加例もあります。

杉並チャリティー・ウォーク2014

5月25日(日)

10:00~15:00 雨天決行

各子エックポイントからの途中参加も可です。

参加費500円(小学生以下100円)

*杉並区子育て応援券が使えます。

スタート

藤部ビル(ブックス)正面玄関
JR東横線南口 徒歩3分

ゴール

杉の宮公園
真王井の東横線山手駅
徒歩7分

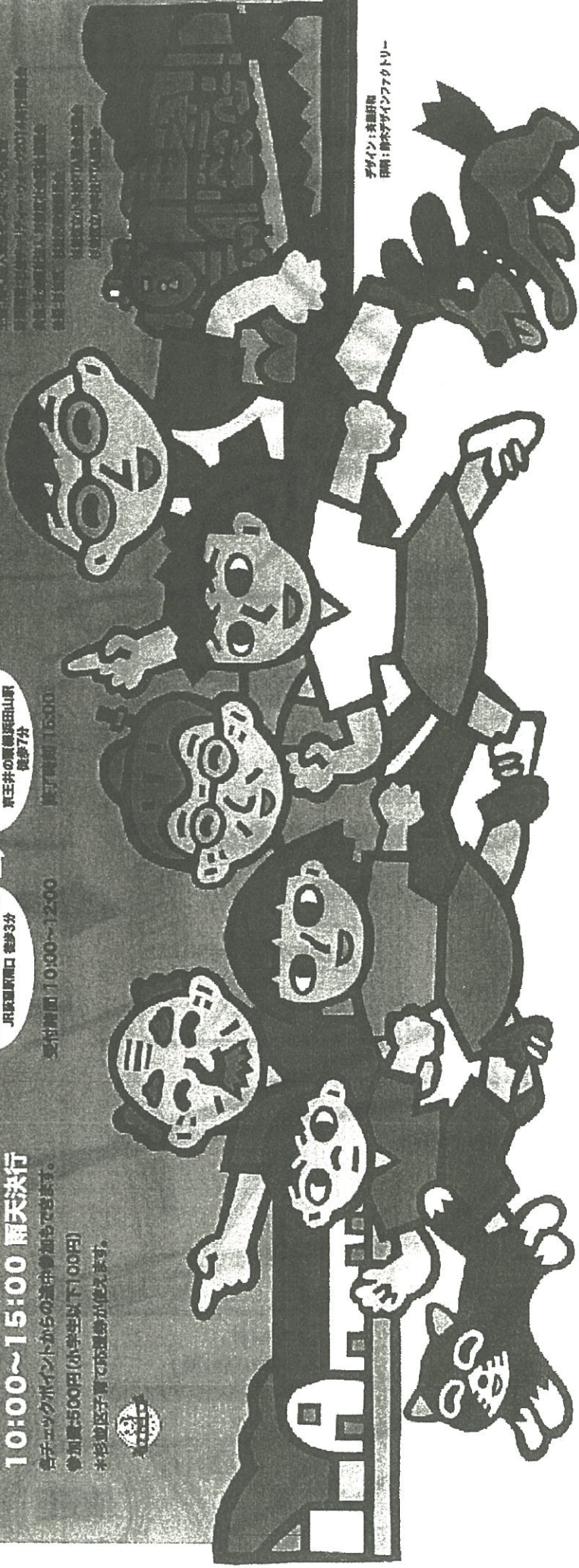
受付時間 15:00

受付時間 10:00~12:00

本気で走ってほしいから、楽しく歩いてほしいから、
～このイベントを通して、杉並区の子育て支援活動の発展を期す。～

本日は、杉並区の子育て支援活動の発展を期す。～このイベントを通して、杉並区の子育て支援活動の発展を期す。～

本日は、杉並区の子育て支援活動の発展を期す。～このイベントを通して、杉並区の子育て支援活動の発展を期す。～



デザイン: 森田研樹
印刷: 新大デザインファクトリー

問い合わせ 杉並チャリティー・ウォーク2014実行委員会
TEL 090-1779-9085(本田)
TEL 070-0527-4505(宇治川)まで
詳細はHPをご覧ください。
<http://home.nps-3.net/yocm/keishi.html>

今日起いし



ミサワホーム東京



尾形通信機株式会社



通行手形

受付にて参加カードにご記入いただいた方は、行事保険に加入させていただきます。
杉並チャリティー・ウォーク2014参加中に事故やケガに遭われた時は近くの実行委員までお知らせください。

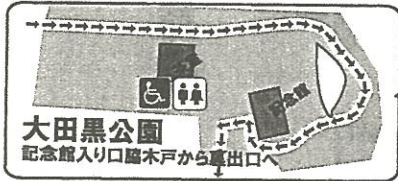
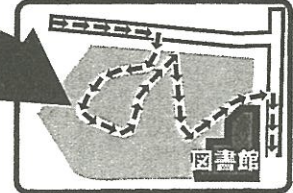
JR 中央線

荻窪駅



スタート
藤澤ビル・アメックス
準備体操があります

荻窪体育館と図書館の間です



大田黒公園
記念館入り口蔵木戸から蔵木出口へ

角川庭園すぎなみ詩歌館
見学できます

シャレール荻窪

お得情報

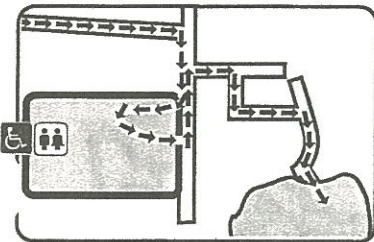
通行手形を持って6月7日(土)8日(日)あんさんぶる荻窪と荻窪すずらん通りで開催の「つながるひろがる荻窪ハーモニーまつり」にもお出かけください。会場のあんさんぶる荻窪6階の杉並リテイ・ウォークの展示スペースで、ハーモニー選会に参加できる、スタンプを押します。

チェックポイント1 ゆう杉並

ゲーム「狙って!あなたのこころの good スマイル」



13時までに
通過ください



てんおう橋
横断歩道
を渡り
ます

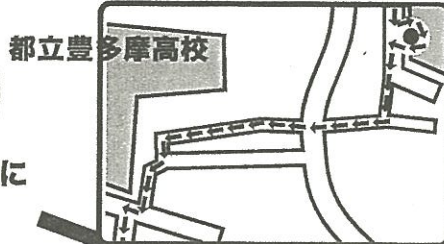
コンビニ

コンビニ
の先の信号
を渡り公園
脇の道へ

チェックポイント2 杉並児童交通公園正門



14時15分までに
通過ください



都立豊多摩高校

車が多い
注意して渡
ります

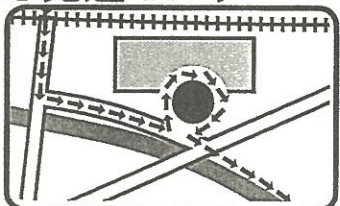


13時30分までに
通過ください

高井戸保健センター

ゴルフ練習場

チェックポイント3 こども発達センター



ゲーム「キムスゲーム〜五感で当てて、お菓子をもらおう!!」

ゴール

区立柏の宮公園
お楽しみ抽選会があります



抽選

15時まで

参加の注意事項

1. 交通ルールを守り、車などに注意し十分に安全に配慮し他の人々に迷惑をかけないように行動してください。
2. 杉並チャリティー・ウォークは時間を競うイベントではありません。体調にあわせて自身のペースを守ってご参加ください。

杉並チャリティー・ウォーク2014

5/25(日)

10:00~15:00 雨天決行

未来をつなぐ子どもたちのために、楽しく歩いてボランティア

開催場所:スタート地点
 国津ビル(アメックス)正面玄関
 受付時間:当日 10:00~12:00
 各駅エックポイントからの
 途中参加も可です。

スタート(受付終了後、集合で)
 ゴール:終了後約 15:00
 参加費:500円(小学生以下100円)
 杉並区子育て支援センターが協賛です。



デザイン:美園好和
 印刷:鈴木デザインファクトリー

スタート
 国津ビル(アメックス)
 正面玄関

JR荻窪駅南口 徒歩3分

杉並児童交通公園
 正門

ゆう杉並

ゴール
 柏の宮公園

京王井の頭線荻田山駅
 徒歩7分

こども発達センター

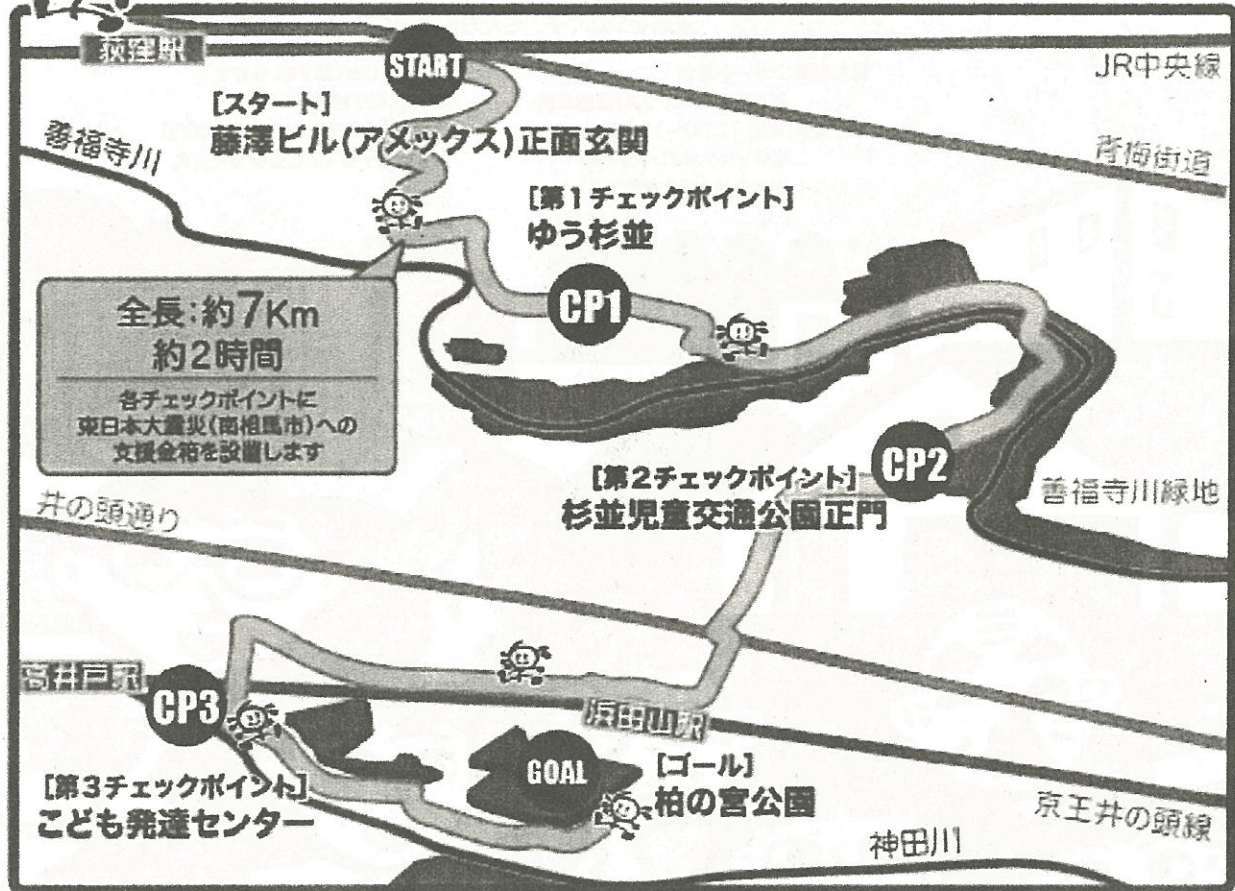
主催:NPO法人未来をつなぐ子ども資金
 計画運営:杉並チャリティー・ウォーク2014実行委員会
 共催:社会福祉法人 杉並区社会福祉協議会
 後援:杉並区 杉並区教育委員会 杉並区立小学校PTA連合協議会
 杉並区立中学校PTA協議会



問い合わせ 杉並チャリティー・ウォーク2014実行委員会
 TEL 03-3770-5022(本田)
 TEL 03-5527-4522(宇治川)まで
 詳細はHPをご覧ください。
<http://hannacpa.nifty.com/~shinri/>



杉並チャリティー・ウォーク2014コース



参加費はすべてボランティア支援資金に

ウォーカーの皆さまからお預かりする参加費は、全額が子どもたちの健全な成長のためのボランティア活動を支援する資金になります。毎年7～8月に支援先となる活動を募集し、9月下旬に公募委員を含む9名の委員による公開選考会で支援先・金額を決定します。2013年度は4団体に総額26万円を助成しました。これまでの助成金は総額503万円になりました。杉並チャリティー・ウォークへのご参加は、市民のための活動を市民が助成するという善意循環のしくみを動かすエネルギーです。

●当日配付の通行手形は、6月7日・8日開催の「狹窪ハーモニーまつり」(会場: あんさんぶる狹窪・狹窪すずらん通り)のハーモニー抽選会のスタンプ2個になります。あんさんぶる狹窪内SCW展示コーナーへおいでください。



私たちも応援しています

国際ロータリー第2750地区東京西南ロータリークラブ 関東バス(株)
丸美屋食品工業(株) ミサワホーム東京(株) 杉並区専修学校各種学校協会
アメリカン・エキスプレス・インターナショナル, Inc. 岩崎通信機(株)
ケンコーマヨネーズ(株) 奥村登記測量事務所 順不同

杉並チャリティー・ウォーク2014

未来をつなぐ子どもたちのために 楽しく歩いてボランティア

受付場所:スタート地点
藤澤ビル(アメックス)正面玄関
受付時間:当日 10:00~12:00
各チェックポイントからの
途中参加もできます。

スタート:受付終了後、各自で
ゴール:終了時刻 15:00
参加費:500円(小学生以下100円)
*杉並区子育て応援券が使えます。



デザイン: 斉藤好和
印刷: 鈴木デザインファクトリー

スタート
藤澤ビル(アメックス)
正面玄関

JR荻窪駅南口 徒歩3分

杉並児童交通公園
正門

ゆう杉並

ゴール
柏の宮公園

こども発達センター

京王井の頭線浜田山駅
徒歩7分

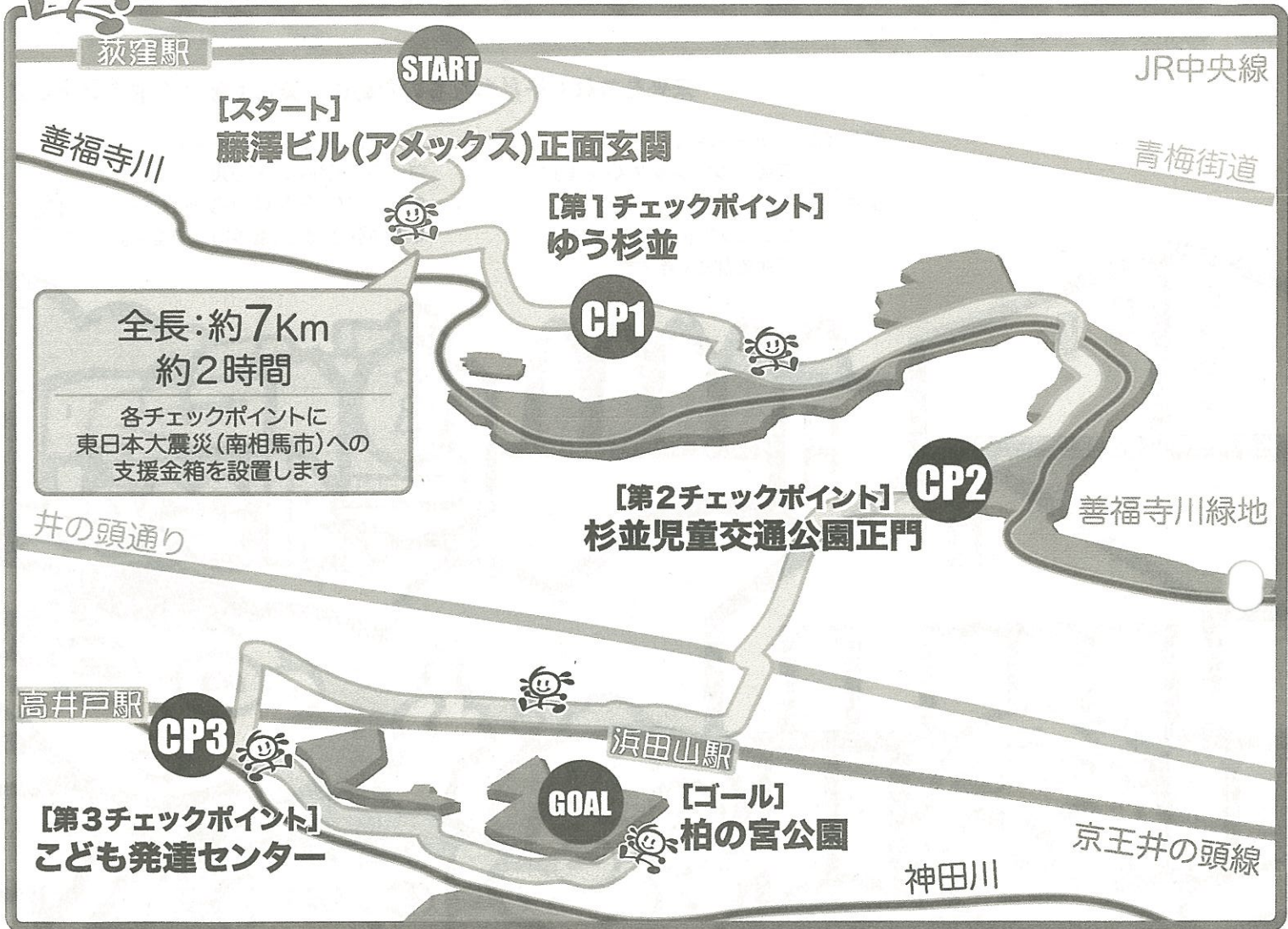
主催:NPO法人未来をつなぐ子ども資金
計画運営:杉並チャリティー・ウォーク2014実行委員会
共催:社会福祉法人 杉並区社会福祉協議会
後援:杉並区 杉並区教育委員会 杉並区立小学校PTA連合協議会
杉並区立中学校PTA協議会



問い合わせ 杉並チャリティー・ウォーク2014実行委員会
TEL 090-1778-9085(本田)
TEL 070-6527-4585(宇治川)まで
詳細はHPをご覧ください。
<http://homepage3.nifty.com/k-shikin/>



杉並チャリティー・ウォーク2014コース



参加費はすべてボランティア支援資金に

ウォーカーの皆さまからお預かりする参加費は、全額が子どもたちの健全な成長のためのボランティア活動を支援する資金になります。毎年7～8月に支援先となる活動を募集し、9月下旬に公募委員を含む9名の委員による公開選考会で支援先・金額を決定します。2013年度は4団体に総額26万円を助成しました。これまでの助成金は総額503万円になりました。杉並チャリティー・ウォークへのご参加は、市民のための活動を市民が助成するという善意循環のしくみを動かすエネルギーです。

- 当日配付の通行手形は、6月7日・8日開催の”荻窪ハーモニーまつり”（会場：あんさんぶる荻窪・荻窪すずらん通り）のハーモニー抽選会のスタンプ2個になります。あんさんぶる荻窪内SCW展示コーナーへおいでください。



私たちが応援しています

国際ロータリー第2750地区東京西南ロータリークラブ 関東バス(株)
丸美屋食品工業(株) ミサワホーム東京(株) 杉並区専修学校各種学校協会
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc. 岩崎通信機(株)
ケンコーマヨネーズ(株) 奥村登記測量事務所 順不同

杉並チャリティー・ウォーク2015 協賛申込書

特定非営利活動法人 未来をつなぐ子ども資金 宛
 kodomoshikin@nifty.com 又はfax 03-3338-5927(秋山宛)

年 月 日

1. ご協賛者

所在地	〒 _____
会社名(団体名)	_____
ご担当者 (お名前・部署)	_____
電 話/FAX	_____
E-mail	_____

2. ご協賛・ご協力の内容

- (1) 協賛金 種類 _____、 _____ 円、 _____ 円
 ご入金の方法 口座振込 現金
 振込口座：三井住友銀行 阿佐ヶ谷支店(普) 6648286
 口座名：杉並チャリティー・ウォーク実行委員会



ご入金の時期 _____ 月 _____ 日頃

(2) 物品協賛

(ご提供くださる物品名・数量等)

- ご搬入の方法 杉並ボランティア・地域福祉推進センター気付で宅配便等で送る
 杉並ボランティア・地域福祉推進センターに届ける
 下記場所まで _____ 月 _____ 日 _____ 時頃に受取に来て欲しい

ご搬入の時期 _____ 月 _____ 日頃

<杉並ボランティア・地域福祉推進センター>

〒167-0051杉並区荻窪5-15-13 あんさんぶる荻窪5階 TEL.03-5347-3939

(3) 広告スペースのご提供

(ご提供広告スペースの内容)

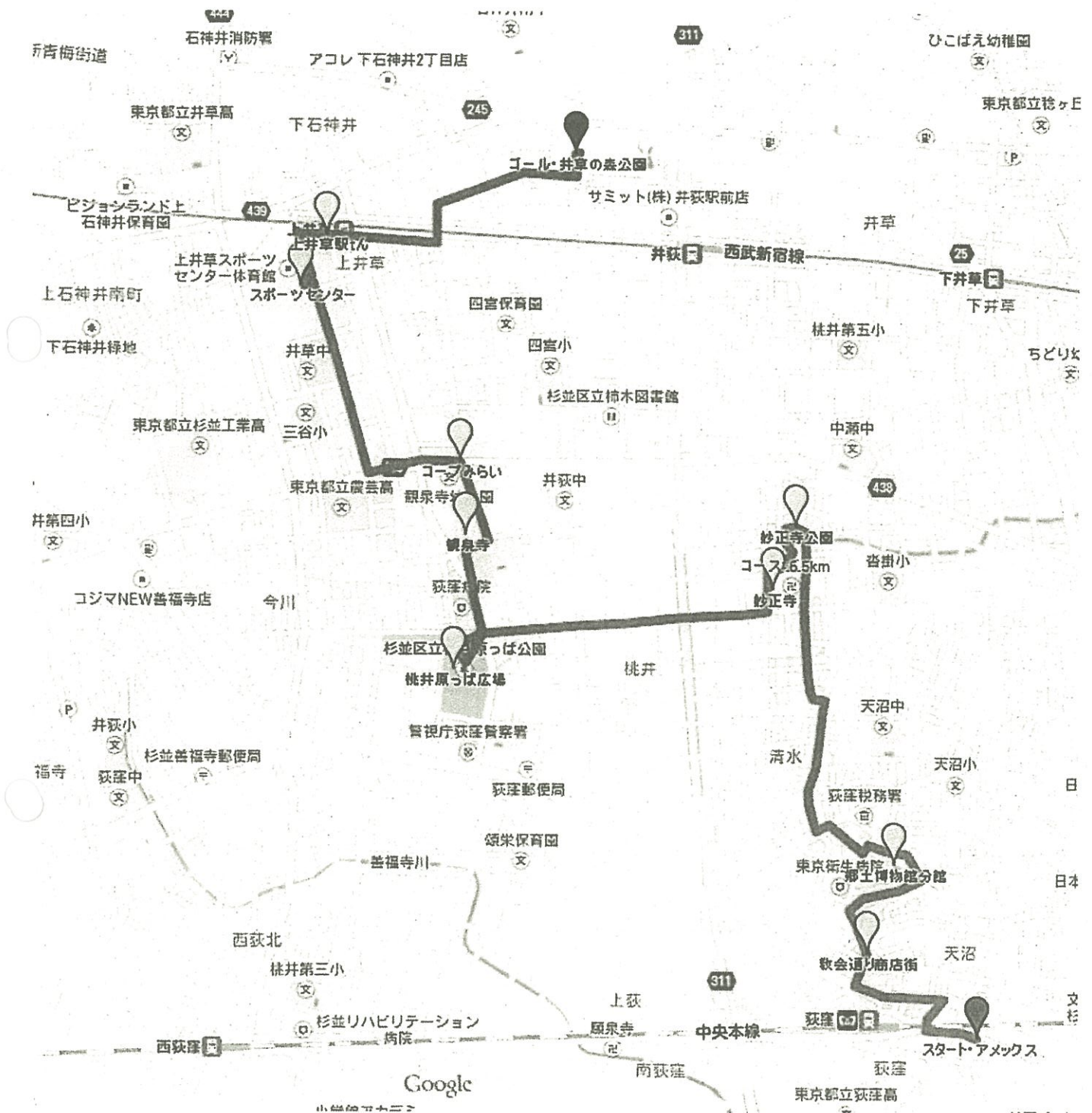
(4) 企業・事業所行事としてのご参加

ご参加人数見込み 中学生以上(500円) _____ 名
 (予定数) 小学生以下(100円) _____ 名
 参加費ご負担額見込み _____ 円

(5) その他のご協力

(ご協力の内容)

2015年 チャリティー・ウォーク コース案



○スタート「アメックス」 ～ ゴール「井草の森公園」 約6Km

アメックス ～ 教会通り商店街 ～ 郷土博物館分館 ～ 妙正寺公園 ～ 妙正寺 ～ 桃井原っぱ広場
～ 観泉寺 ～ コープみらい ～ 上井草スポーツセンター ～ 上井草駅 ～ 井草の森公園

ご協賛・ご協力方法とご紹介メディア

I. ご協賛・ご協力の方法

- (1) 協賛金のご提供
- (2) 物品のご提供
- (3) 広告スペースのご提供
- (4) 企業・事業所行事としてのご参加（参加費負担等）
- (5) その他

II. ご紹介メディア

ご協賛・ご協力の規模に応じて、以下のメディアで貴社名（団体名）をご紹介させていただきます。

相当額	ポスター (ロゴ表示) B3版片面カラー印刷	チラシ A4版両面カラー印刷	当法人ホームページ	通行手形	イベント ボード
A (5万円)	○	○	○	○	○
B (3万円)		○	○	○	○
C (1万円)			○	○	○
頒布枚数	700枚	25000枚		1000枚	
主な頒布先	関東バス車内 掲示(予定) 区立小学校・ 中学校・保育園・幼稚園・児童館など区施設全般	区立小学校・中学校(生徒数) 保育園・幼稚園・児童館など 区施設全般 協力企業 協力商店街		杉並チャリ ティーウォーク参加者に配布 (マップとし	スタート 各チェックポイント ゴール
配布方法	配送、郵送			スタート地点及び 各チェックポイントにて参加費と引き替え	

* ホームページ <http://homepage3.nifty.com/k-shikin/>

* ポスターおよびチラシへの掲載をご希望の場合は、2015年2月16日(月)までにお申し込みください

2014年12月吉日

技研興業株式会社 御中

— 未来を担う子どもたちの健やかな成長を願って —
「杉並チャリティー・ウォーク 2015」協賛のお願い

特定非営利活動法人 未来をつなぐ子ども資金
理事長 宇治川 敏夫
杉並チャリティー・ウォーク 2015 実行委員会
委員長 奥村 忠

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より「杉並チャリティー・ウォーク」につきまして格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

「杉並チャリティー・ウォーク」は、区内のボランティア活動を区民が支援するためのチャリティーイベントです。区民のための活動を区民が支えるという善意循環のしくみが定着し、杉並区がより住みやすいまちになることを目指しています。

おかげさまで、2001年の国際ボランティア年を契機として始めた「杉並チャリティー・ウォーク」も昨年までで14回開催することができました。1コインで始められる気軽なボランティア活動として、大人も子どもも楽しめるウォーキングイベントとして、市民交流と杉並のまちの再発見の機会として、多くの方々からご好評をいただける恒例のイベントとなっています。

参加者からお預かりする参加費は、その全額を「地域における子どもたちの健全育成活動」を行う団体への助成金原資としており、これまでに500万円以上の資金を提供しています。

2015年も、5月31日(日)に「杉並チャリティー・ウォーク」を開催いたします。この企画・運営は市民・企業・行政の三者協働による実行委員会にて推進して参ります。

厳しい経済情勢下とは存じますが、何卒趣旨をご理解いただき、ご協賛・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

問い合わせ先

杉並チャリティー・ウォーク 2015 実行委員会
事務局 秋山 Email : kodomoshikin@nifty.com
fax:03-3338-5927

同封文書

- 1、杉並チャリティー・ウォーク 2015 企画書
- 2、杉並チャリティー・ウォーク 2015 ご協賛・ご協力方法とご紹介メディア
- 3、杉並チャリティー・ウォーク 2015 協賛申込書(企業・団体用)
- 4、2002年～2014年 助成団体一覧
- 5、ご参考：前回「杉並チャリティー・ウォーク 2014」報告書

2014年6月

各位

特定非営利活動法人未来をつなぐ子ども資金
理事長 宇治川 敏夫
杉並チャリティー・ウォーク 2014 実行委員会
委員長 本田 良夫

ご協力御礼

謹啓 皆様におかれましては時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、杉並チャリティー・ウォークに対しまして深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび14回目を迎えました「杉並チャリティー・ウォーク2014」(5月25日開催)実施に際しましては、快くご協力を賜り、重ねて厚くお礼申し上げます。

おかげさまで当日は好天に恵まれ、まだ途中集計ですが約740名の方々にご参加をいただきました。参加者には杉並の緑や街並みの中を散策いただき、ゴールではお楽しみ抽選会でもれなく景品を手にしていただき、途中大きな事故もなく無事に一日をお過ごしいただきました。

「楽しく歩いてボランティア」とワンコインの参加費で集めたチャリティー資金は28万円ほど集まりました。また、あわせて行いました東日本大震災・南相馬市支援募金も集まりました。これも偏に皆様のご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

こうして集まりましたチャリティー資金につきましては、例年通り9月に公開選考会を開催し、その全額を地域で青少年健全育成に活動されている団体・グループへ資金助成を行う予定であります。これまでの助成金の総額は500万円を超えており、これもみなさまのご支援ご協力の賜物と感謝しております。

よりよいまちづくりを目指し、住民・行政・企業が力をあわせ協働して地域との接点をつくと同時に、未来を担う子どもたちの健全育成活動を支援する。これは、私たちのこのイベントにかける思いですが、これからもその更なる実現に向けて誠心誠意頑張ってまいります。今後ともご支援ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

「杉並チャリティー・ウォーク2014」(5月25日開催)の開催報告書を作成いたしましたので、ご笑納いただければ幸いです。

末筆ながら、皆様のご健勝とますますのご発展をご祈念申し上げ、書面ながらお礼まで申し上げます。

謹白

お問合せ先:

特定非営利活動法人未来をつなぐ子ども資金
杉並チャリティー・ウォーク 2014 実行委員会
〒166-0015 東京都杉並区成田東 5-33-20 神谷幸男方
TEL 03-3391-2396、FAX 03-3391-0863
MB 070-6527-4585 宇治川
E-mail: kodomoshikin@nifty.com

杉並チャリティー・ウォーク2014実施報告書

NPO法人未来をつなぐ子ども資金
杉並チャリティー・ウォーク2014実行委員会

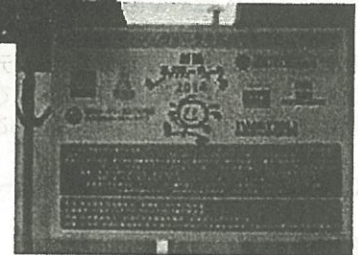
このたびは杉並チャリティー・ウォーク2014にご協力いただき、誠にありがとうございました。
以下の通り実施結果をご報告いたします。
今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

開催日	2014年5月25日(日)
参加者	743人(実行委員・ボランティア97人含む)
チャリティー総額	272,800円(平成26年5月30日現在)
共催	社会福祉法人杉並区社会福祉協議会杉並ボランティアセンター
後援	杉並区 杉並区教育委員会 杉並区立小学校PTA連合協議会 杉並区立中学校PTA協議会
協賛・協力・応援	杉並区専修学校各種学校協会 アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc. ケンコーマヨネーズ株式会社 鹿島ボランティアネットワーク ミサワホーム東京株式会社 国際ロータリー第2750地区東京西南ロータリークラブ 関東バス株式会社 奥村登記測量事務所 丸美屋食品工業株式会社 株式会社細田工務店 鈴木デザインファクトリー ゴールドマン・サックス 杉並ねっこワーク わたぼうしの会 こどもの成長を護る杉並ネットワーク すぎなみKids 斎藤好和 杉並冒険遊びの会 株式会社ポリシヨイサーカス スマイルハート 杉並の住民ディレクター 自然観察の会・杉並 株式会社アイテックエンジニアリング NPO法人杉並さわやかウォーキング 荻窪地区町会連合会 まちと人のご縁を結ぶ～おむすび会 山室栄司 カラーパーティーすぎなみ 岩崎通信機株式会社 東京都立杉並高等学校 浜田山町会 さんし会
コース	(順不同)
アトラクション	スタート:開会式(来賓:杉並区長代理、AMEXサイド社長ほか)・準備体操 チェックポイント1:ゲーム「狙って!あなたのこころのgoodスマイル」 チェックポイント2 チェックポイント3:ゲーム「キムスゲーム～五感で当てて、お菓子をもらおう!」 ゴール:お楽しみ抽選・ビンゴ大会
ポスター頒布	700枚(区内小中学校、関東バス車内)
チラシ頒布	35000枚(全小中学校生徒、区内公立施設等)
報道	1.ジェイコム東京(杉並エリアのみ)デジタル11ch アナログ2ch「すぎなみニュース」平成26年6月8日(日)から6月14日(土)まで1日3回 2.区公式ホームページ動画コーナー「すぎなみニュース」

【ご参考】

助成事業	2014年度公開選考会:2014年9月開催予定 対象:子どもの健全育成または社会教育の推進を図る活動(原則として杉並区内) 助成額:総額30万円 予定
------	---

スタート・受付



藤澤ビル・アメックス前広場

協賛企業団体紹介ボード

チェックポイント・コース



コース上の清掃ボランティア



コース案内のぼり



チェックポイントでのゲーム



ゴール・お楽しみ抽選



コース誘導のボランティア



お楽しみ抽選



通

行

杉並 チャリティーウォーク

手

形

参加の皆さまへ

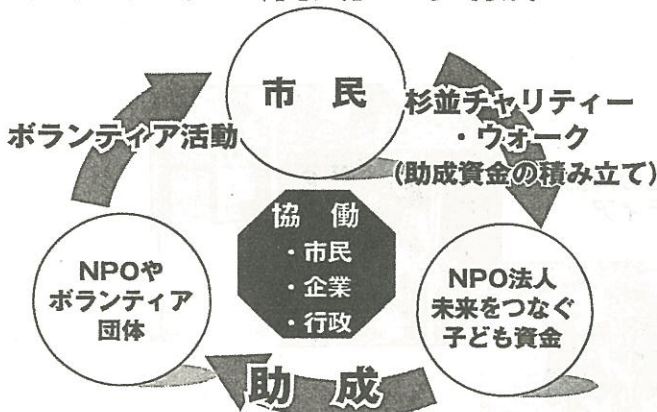
杉並チャリティー・ウォークも14回目を迎え、「楽しく歩いてボランティア」というスローガンの下、参加費全額が子どもたちの健全育成に関わる活動助成に使われるイベントとして徐々に浸透して来ました。

今年は、杉並区を流れる代表的な3つの川のうち「善福寺川から神田川までを歩くコース」とし、前半は特に荻窪南地域の公園・文化施設をご覧頂く等景観のまちづくりを意識し、後半は商店街や私鉄沿線を歩くなど、全体として見どころもみどりも多いコースになっています。子育て応援券もご利用可能ですので、親子を含めたより多くの方々に親しみ参加して頂くことが出来ます。

歩くコースは全長約7km、各チェックポイントのお楽しみに加え、ゴールでは杉並で一番広い区立公園の雰囲気を楽しんで頂くことができます。お楽しみ抽選会もあります。この杉並チャリティー・ウォークに参加することが、杉並を知り、地域に愛着を持ち、更なるボランティア活動への第一歩を踏み出すきっかけとなって頂ければ幸いです。なお、今年も、2011年3月に起こりました東日本大震災に対し、杉並区と災害時相互援助協定を締結し、杉並チャリティー・ウォークにもご協力頂いたことのある南相馬市への支援金箱を設置しております。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

2014年5月25日 杉並チャリティー・ウォーク2014実行委員長 本田 良夫

参加費は ボランティア活動の支援へ



皆さまからお預かりした参加費は、全額がボランティア活動を支援する資金になります。支援先は、毎年9月に開催する公開選考会において、公募を含む9名の選考委員により決定します。

2013年度は、2013年9月に公開選考会を行い、右記4団体に26万円を助成しました。過去13回の助成額は合計503万円でした。

ありがとうございました。

私たちは、市民のための活動を市民が支援するという善意循環のしくみを通じ、よりよい地域社会が実現されることを願っています。

2013年度助成先

1	杉並ねっこワーク	「怪我と弁当は自分もち」をモットーに、子ども達が想像力に働かせ、「やりたい」と思うことを実現できる自由な遊び、「和田堀プレーパーク」を開催しています。普段公園で禁止されている、木登り・火遊びなども思い切りできます！そして、遊び場の中で地域の大人が活躍するワークショップも同時開催！対象は子どもだったり大人だったり、色々です。これからは面白いことをドンドンやっていますよ。子どもも、大人も楽しみながら地域に知り合いが出来ちゃう。そんな場所であることを大切に地域の父母が活動しています
2	わたぼうしの会	「第26回ポニー乗馬会」を昨年11月17日に井草森公園で実施し約150人の方にご参加いただきました。障がいがある人もない人も一緒にポニーによる引き馬を楽しみ、かわいい動物達に触れる小動物コーナーも設置しました。
3	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	絵本は心の食事です。絵本を通して、子供達は様々な体験をし、豊かな心、想像力を育て、喜怒哀楽や善悪に対する感性を高め、言語力、コミュニケーション力を養って行くことができます。私たちは、よい絵本をご紹介しますと同時に、ご家庭で実践できる「対話式」絵本の読み聞かせの紹介・普及をすることによって、(1)子供の心の成長&自立支援、(2)良好な親子関係・子育て家庭環境の構築支援、(3)大人の情操教育支援を行っています。
4	すぎなみKids	9月7日(日)に高井戸小学校で100ます計算大会を開催します。参加無料。これまでの主な参加者は小学生とその父兄ですがどなたでも参加できます。簡単な計算問題をみんなで楽しく解いてみよう♪どんな問題か気になるかすぎなみKidsサイトをチェックしてね。 http://suginamikids.com プレゼントがもらえるお楽しみ抽選会もあるよ。

私たちも協力・応援しています

杉並区専修学校各種学校協会 アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.
 ケンコーマヨネーズ株式会社 鹿島ボランティアネットワーク ミサワホーム東京株式会社
 国際ロータリー第2750地区東京西南ロータリークラブ 関東バス株式会社 奥村登記測量事務所
 丸美屋食品工業株式会社 株式会社細田工務店 鈴木デザインファクトリー ゴールドマン・サクス
 杉並ねっこワーク わたぼうしの会 こどもの成長を護る杉並ネットワーク すぎなみKids 斎藤好和
 杉並冒険遊びの会 株式会社ポリショイサーカス スマイルハート 杉並の住民ディレクター
 自然観察の会・杉並 株式会社アイテックエンジニアリング NPO法人杉並さわやかウォーキング
 荻窪地区町会連合会 まちと人とのご縁を結ぶ～おむすび会 山室栄司 カラーパーティーすぎなみ
 岩崎通信機株式会社 東京都立杉並高等学校 浜田山町会 さんし会

主催：NPO法人 未来をつなぐ子ども資金

計画運営：杉並チャリティー・ウォーク2014実行委員会

共催：社会福祉法人杉並区社会福祉協議会 杉並ボランティアセンター

後援：杉並区・杉並区教育委員会・杉並区立小学校PTA連合協議会・杉並区立中学校PTA協議会



【助成実績一覧】

年度	団体名	金額	備考
2002年	グループ・ジュンファイブ	30,000	NPO法人
	NPO法人 子ども文化NPO M.A.T	100,000	NPO法人
	杉並に子どもの人権を守るしくみを作る会	30,000	任意団体
	Dancin' Festa 舞祭組	40,000	任意団体
	西荻まちメディア	100,000	NPO法人
	みどりのボランティア杉並 ピオトープネットワーク	130,000	任意団体
	ミュージック・ラボぴゅあ	70,000	任意団体
	合計	500,000	
2003年	杉並に子どもの人権を守るしくみを作る会	10,000	任意団体
	西荻まちメディア	100,000	NPO法人
	ミュージック・ラボぴゅあ	200,000	任意団体
	ガールスカウト東京都139団	100,000	任意団体
	ミュージックジョイ ミヤモト	40,000	任意団体
	合計	450,000	
2004年	子ども文化NPO M.A.T	100,000	NPO法人
	ミュージック・ラボぴゅあ	100,000	任意団体
	NPO芸術資源開発機構	120,000	NPO法人
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	30,000	任意団体
	ふじみ・すぎしち学級保護者有志(仮称)	40,000	任意団体
	南伊豆健康学園の教育を考える会	50,000	任意団体
	わたぼうしの会	160,000	任意団体
	合計	600,000	
2005年	ガールスカウト東京都139団	40,000	任意団体
	NPO芸術資源開発機構	145,000	NPO法人
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	35,000	任意団体
	南伊豆健康学園の教育を考える会	35,000	任意団体
		合計	255,000
2006年	ミュージック・ラボぴゅあ	30,000	任意団体
	ガールスカウト東京都139団	40,000	任意団体
	和泉自由学校	10,000	NPO法人
	NPO芸術資源開発機構	50,000	NPO法人
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	20,000	任意団体
	JSプロジェクト	60,000	任意団体
	子育て支援グループ ゆるゆるma~ma	55,300	任意団体
	合計	265,300	
2007年	ミュージック・ラボぴゅあ	64,000	任意団体
	ガールスカウト東京都139団	30,000	任意団体
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	35,000	任意団体
	わたぼうしの会	200,000	任意団体
	善福寺少年友の会(ゼクス)	38,400	任意団体
		じぶん未来クラブ	200,000
	合計	567,400	
2008年	Dancin' Festa 舞祭組	200,000	任意団体
	ガールスカウト東京都139団	30,000	任意団体
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	70,000	任意団体
	杉並冒険遊びの会	200,000	任意団体
		合計	500,000
2009年	ガールスカウト東京都139団	30,000	任意団体
	NPO芸術資源開発機構	30,000	NPO法人
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	35,000	任意団体
	わたぼうしの会	200,000	任意団体
	杉並冒険遊びの会	140,000	任意団体
	マドレポニータ	50,000	NPO法人
	みどりの善福寺川を愛でる会	10,000	任意団体
	すぎなみ学びの楽園	20,000	NPO法人
	合計	515,000	

年度	団体名	金額	備考
2010年	わたぼうしの会	200,000	任意団体
	杉並社会福祉士会・杉並中3勉強会	200,000	任意団体
	おやじネットワーク杉並	30,000	任意団体
	杉並冒険遊びの会	100,000	任意団体
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	35,000	任意団体
	合計	565,000	
2011年	わたぼうしの会	120,000	任意団体
	ガールスカウト東京都139団	25,000	任意団体
	杉並冒険遊びの会	75,000	任意団体
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	35,000	任意団体
	合計	255,000	
2012年	ガールスカウト東京都139団	15,000	任意団体
	わたぼうしの会	90,000	任意団体
	ハハハ♪ハッピーハーモニー	30,000	任意団体
	芸術資源開発機構(ARDA)	50,000	NPO法人
	杉並冒険遊びの会	50,000	任意団体
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	20,000	任意団体
	すぎなみKids	25,000	任意団体
creo	20,000	任意団体	
	合計	300,000	
2013年	杉並ねっこワーク	100,000	任意団体
	わたぼうしの会	100,000	任意団体
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	35,000	任意団体
	すぎなみKids	25,000	任意団体
	合計	260,000	
2014年	わたぼうしの会	100,000	任意団体
	こどもの成長を護る杉並ネットワーク	45,000	任意団体
	杉並冒険遊びの会	100,000	任意団体
	合計	245,000	
	総計	5,277,700	延べ72団体

チャリティー方法

当日、スタート地点またはコースの途中にあるチェックポイントにて参加者に「通行手形」を購入していただきます（中学生以上 500 円、小学生以下 100 円）。これが参加費で、チャリティー資金になります。

なお、参加者は、主催者負担のイベント保険に加入していただくため住所・氏名を登録していただきます。杉並区の「子育て応援券」も使用できます。

安全対策

コースの要所に誘導員を配置し、参加者の事故防止に努めます。



問い合わせ

杉並チャリティー・ウォーク実行委員会事務局

E-mail: kodomoshikin@nifty.com

URL : <http://homepage3.nifty.com/k-shikin/>

Facebook: www.facebook.com/suginamicharitywalk

協賛のお願い

以下のような協賛方法があります。ぜひご協力をお願いいたします。

- ① 本イベントの運営費用のための「協賛金のご提供」
- ② 参加者の皆さまへプレゼントする「物品のご提供」
- ③ 本イベントの「広告スペースの無償提供」

また、企業・事業所行事としてのご活用をご検討いただくと幸いです。企業・事業所が参加費を負担し、以下のようにご活用いただいている事例があります。

- 社員やその家族の参加を奨励し、相互の交流の場とする。
- 社員のボランティア体験として、チームを組んで歩きながらコース上のゴミ拾いを行う。
- 社員の健康のためのウォーキングイベントとする。

協賛協力していただいた企業・団体・個人のお名前は本イベントのポスターやチラシ等でご紹介をさせていただきます。

昨年の協賛・協力実績

○協賛協力企業・団体・個人

アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc. 岩崎通信機株式会社 関東バス株式会社 ケンコーマヨネーズ株式会社 丸美屋食品工業株式会社 ミサワホーム東京株式会社 奥村登記測量事務所 株式会社アイテックエンジニアリング ゴールドマン・サックス 鈴木デザインファクトリー 株式会社細田工務店 株式会社ポリシヨイサーカス

国際ロータリー第 2750 地区東京西南ロータリークラブ 杉並区専修学校各種学校協会 鹿島ボランティアネットワーク 荻窪地区町会連合会 カラーパーティーすぎなみ こどもの成長を護る杉並ネットワーク さんし会 自然観察の会・杉並 すぎなみ Kids NPO法人杉並さわやかウォーキング 杉並ねっこワーク 杉並の住民ディレクター 杉並冒険遊びの会 スマイルハート 東京都立杉並高等学校 浜田山町会 まちと人のご縁を結ぶーおむすび会 わたぼうしの会 斎藤好和 山室栄司 (順不同)

杉並 チャリティー・ウォーク

特定非営利活動法人 未来をつなぐ子ども資金

杉並チャリティー・ウォーク 2015 実行委員会

平成 26 年度 YS 市庭コミュニティー財団 助成応募要項

当財団の助成事業は、地域に根付いたコミュニティーがより活性化し、新たな生活、文化、経済等の価値観が生まれることを願って 2013 年度より実施するものです。私達は社会環境等に惑わされて自分を見失うことのないように、また、人の営みはお互いの意思の疎通を核とした相対的な合意形成にあることを強く認識したいと考えます。また、自分の生きている時代、時間を大切にす為には人は何らかのコミュニティーに包まれていることを理解して、新たなコミュニティーを求めて自分の可能性をより高めていくことも考える必要があります。自分をとり巻く環境を共鳴するコミュニティーに仕上げていくには、一人一人が小さな努力を積み上げて、多様な価値観を自己の責任を通して再構築しお互いの価値観の相違を尊重、包含し、共鳴しあえる普遍的なコミュニティーづくりを目指すことに意義があると考えます。コミュニティー活動を通じて、日々生活する人々が活気に満ち、地域の再生、生活、文化の発展等に寄与する NPO 活動等を応援したいと考えます。

特にこの助成事業では、コミュニティーの助成とともに、助成対象団体相互の交流についても助成します。これらを通じて、各地のコミュニティー活動が促進されるとともに、知恵や経験を交換することにより、活動が一層広がることを目指していきます。

1 助成対象分野と活動内容

助成対象の分野は、生活・環境・文化・芸術など広く含むこととし、活動内容は、下記の共鳴するコミュニティーづくりを行う NPO 団体等によるコミュニティー活動とする。

- 1) コミュニティー振興及びまちづくりに関する事業
- 2) 社会教育及び文化・スポーツに関する事業
- 3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

具体的には、上記目的や事業内容にそった活動、講座やセミナー開催、体験学習に対して助成等を行うものとする。

2 対象の団体の要件

この助成事業は、下記の要件を満たす団体を対象とします。ただし、団体の目的や活動の内容が、政治・宗教などに偏っている活動は除きます。

コミュニティー活動する団体

- (1) 営利を目的としない団体
- (2) 日本国内外を対象に活動する団体

- (3) 設立や運営に企業が主体的に関わっていない団体
- (4) 団体の法人格の有無や種類は問わないが NPO 法人等を当面優先する。

3 助成の内容

1) コミュニティー事業

・コミュニティ振興及びまちづくりに関する事業

5 件程度 5 百万円以内

・社会教育及び文化・スポーツに関する事業

5 件程度 5 百万円以内

2) 防災講座・職場体験セミナー等の開催助成

① 防災食講座

② 防災シミュレーション体験講座

③ 児童向けお料理体験などの各種体験講座

以上合わせて 6 件 3 百万円以内

④ 体験学習(職場体験) 2 件程度

※ 試行期間のため、個別に審査予定

2) 助成総額 1,500 万円程度

3) 助成件数 20 件程度(今年は新規助成だけです)

4) 助成金の使途 助成金は活動助成金により構成されます。

(活動助成金)

活動を推進する上で必要な費用です。

(交流助成金)

本プログラムが主催する交流会などに出席するための交通費・宿泊費。

(1 団体 2 名まで)(別途算定)

5) 助成期間 2014 年 10 月 1 日～2014 年 9 月 30 日(1 年間)

6) 継続助成

前年の助成の目的を達しつつあり、さらなる助成により発展が期待される

活動に対して、各段階への応募と選考により継続的な助成を行います。

4 応募方法

1) 応募書類受付期間

2014 年 6 月 10 日～2014 年 7 月 20 日(当日消印有効)

2) 応募要項・応募用紙

<参考文書: 交付要項および応募書類>を必ず一読のうえ、ダウンロードしてください。

応募書類とその複製 2 部の計 3 部を下記までご郵送下さい(郵送のみ、持参不可)。

応募書類はホチキス止め、両面コピー、2 つ折りはしないでください。

また応募書類は返却致しませんので、コピーをとっていただくなどご注意ください。

3)送付先住所

〒107-0061 東京都港区北青山1丁目2番3号 青山ビル9階
グランドソントン太陽 ASG 税理士法人内 YS 市庭コミュニティー財団事務局
電話:03-5770-8822 FAX:03-5770-8820

郵送による入手をご希望の場合は、「応募要項・用紙の送付希望」と明記の上、送付先の郵便番号・住所・団体名・氏名・電話番号を記載して、ファックスにより次項の請求先までお申し込み下さい。

5 選考方法と選考結果

選考は応募書類に基づく書類選考とし、選考委員会において、以下の選考基準に基づいて行います。選考の過程で、面接、追加資料の提出、団体責任者への問い合わせなどのご協力をお願いする場合があります。

(選考基準)

- ・意欲性 意欲のある多様な人々の参加する活動であるか
- ・先駆性・独自性 新しい試みのある活動であるか
- ・地域性 地域に根ざした活動であるか
- ・社会性 社会に目を向けた活動であるか
- ・公開性 その過程や成果が公開される活動であるか
- ・発展性 継続して行われ発展が期待できる活動であるか

(選考結果)

選考結果は、2014年9月中旬までに、全ての応募者に文書で連絡します。

6 助成決定後の助成金の支払い

- 1) 活動助成金は2015年9月末まで、二回に分けて交付予定です。
- 2) 交流助成金は交流会の終了後、別途算定し、お支払いいたします。

7 事業実績報告

助成事業者は、助成事業終了後1月を経過する日までに、
事業実績報告書(書式6)に、実績報告書(書式7)、
収支決算書(書式8)、証憑書類の写し及び参考資料を添付して、理事長に提出して下さい。

8 個人情報の取り扱いについて

当財団への応募を通じて皆様からお預かりする個人情報は厳重に取り扱い、当財団の運営ならびにそれに関連する目的にのみ限って使用するものとします。当該業務に必要な範囲で

一部業務を外部委託する場合を除き、個人情報を応募者の承諾なく第三者に提供することはいたしません。

助成対象となった団体については、団体名・代表者名・所在都道府県名・プロジェクト名・

助成金額・活動概要・および拠点活動場所等に関しては公表させていただきますので、

ご了承下さい。

政策説明資料(平成27年度 当初予算)

1. 基本事項

市民文化部まちづくり協働推進課

事業名	校区まちづくり協議会支援事業				繰越区分	
財政区分	経費:企画経費 会計:一般会計 事業:020101-37					
事業予算費目	款	総務費	項	総務管理費	目	一般管理費
総合計画上の位置付け	都市像	心地よいつながりで作る自治・協働・平和都市		開始年度	平成22年度	
	政策	協働によるまちづくり		実施手法	直接実施	
	施策	自治会やNPO、ボランティアが活躍できる機会を増やす		負担区分	市単独事業	
根拠法令要綱等	小学校区単位の新たなコミュニティ施策の展開に関するモデル事業実施指針 那覇市校区まちづくり協議会モデル実施要綱					

2. 事業概要

事業の対象	小学校区を単位とした「校区まちづくり協議会」					
事業の目的	①地域共通の課題の把握、課題解決策の検討②地域課題解決のための活動の実践③地域・家庭・学校が一体となり、地域ぐるみで高齢者を見守り、子どもを育てる等の体制の確立④地域住民に対する広報⑤地域団体相互の情報共有・連携・協力関係の推進					
事業の内容及び効果	各団体・個人が緩やかに連携し、地域課題への解決に向けた取組みを実践する概ね小学校区を1つのエリアとした校区まちづくり協議会に対し、補助を行う。地域団体が知り合い、繋がり、地域の課題を明確にし、自らが地域課題に取り組むきっかけとなっている。					
活動実績及び評価	平成22年度に1校(与儀)、平成23年度に1校(石嶺)、平成24年度には2校(若狭・銘苅)の協議会が設立された。モデル事業の検証作業の結果、地域課題への対応等に一定の効果があると評価できる。また、隣接する校区の小学校区にも新たな協議会を結成する動きもみられる。					
今後の方向性とその内容	継続(現状のまま)	協議会設立までの地域コンセンサスの形成に時間がかかるが、今後は、本市の新たなコミュニティの在り方として、基礎となるコミュニティとなるため、全小学校区に広げていけるよう取り組んでいきたい。				
その他特記事項	※平成26年度「小学校区コミュニティモデル事業」より名称変更 ※「那覇市協働によるまちづくり推進基金繰入金」「対米請求権地域振興助成事業助成金」を特定財源としている。					

3. 事業費

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
当初予算額		3,767千円	3,846千円	3,310千円
財源内訳	国・県支出金	0千円	0千円	0千円
	地方債	0千円	0千円	0千円
	分担金・負担金	0千円	0千円	0千円
	使用料・手数料	0千円	0千円	0千円
	その他	0千円	0千円	3,310千円
	一般財源	3,767千円	3,846千円	0千円
決算額		3,696千円	*****千円	*****千円
予算残額		71千円	*****千円	*****千円
執行率		98.1%	*****%	*****%

政策説明資料(平成27年度 当初予算)

1. 基本事項

市民文化部まちづくり協働推進課

事業名	校区まちづくり協議会支援事業				繰越区分	
財政区分	経費:企画経費 会計:一般会計 事業:020101-37					
事業予算費目	款	総務費	項	総務管理費	目	一般管理費
総合計画上の位置付け	都市像	心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市			開始年度	平成22年度
	政策	協働によるまちづくり			実施手法	直接実施
	施策	自治会やNPO、ボランティアが活躍できる機会を増やす			負担区分	市単独事業
根拠法令要綱等	小学校区単位の新たなコミュニティ施策の展開に関するモデル事業実施指針 那覇市校区まちづくり協議会モデル実施要綱					

2. 事業概要

事業の対象	小学校区を単位とした「校区まちづくり協議会」					
事業の目的	①地域共通の課題の把握、課題解決策の検討②地域課題解決のための活動の実践③地域・家庭・学校が一体となり、地域ぐるみで高齢者を見守り、子どもを育てる等の体制の確立④地域住民に対する広報⑤地域団体相互の情報共有・連携・協力関係の推進					
事業の内容及び効果	各団体・個人が緩やかに連携し、地域課題への解決に向けた取組みを実践する概ね小学校区を1つのエリアとした校区まちづくり協議会に対し、補助を行う。地域団体が知り合い、繋がり、地域の課題を明確にし、自らが地域課題に取り組むきっかけとなっている。					
活動実績及び評価	平成22年度に1校(与儀)、平成23年度に1校(石嶺)、平成24年度には2校(若狭・銘苅)の協議会が設立された。モデル事業の検証作業の結果、地域課題への対応等に一定の効果があると評価できる。また、隣接する校区の小学校区にも新たな協議会を結成する動きもみられる。					
今後の方向性とその内容	継続(現状のまま)	協議会設立までの地域コンセンサスの形成に時間がかかるが、今後は、本市の新たなコミュニティの在り方として、基礎となるコミュニティとなるため、全小学校区に広げていけるよう取り組んでいきたい。				
その他特記事項	※平成26年度「小学校区コミュニティモデル事業」より名称変更 ※「那覇市協働によるまちづくり推進基金繰入金」「対米請求権地域振興助成事業助成金」を特定財源としている。					

3. 事業費

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
当初予算額		3,767千円		3,846千円		3,310千円	
財源内訳	国・県支出金	0千円		0千円		0千円	
	地方債	0千円		0千円		0千円	
	分担金・負担金	0千円		0千円		0千円	
	使用料・手数料	0千円		0千円		0千円	
	その他	0千円		0千円		3,310千円	
	一般財源	3,767千円		3,846千円		0千円	
決算額		3,696千円		*****千円		*****千円	
予算残額		71千円		*****千円		*****千円	
執行率		98.1%		*****%		*****%	

【地域防災勉強会】開催のご案内

ひとが集まる住みよいまちづくり

～「災害訓練」を使った新しい地域コミュニティ～

■平成 27 年 2 月 22 日(日)15:00—17:00 (開場 14:30)

■若狭公民館 2F 第1研修室 ■入場無料(どなたでも参加できます) ■定員 60 名

【テーマ】 「みんなが楽しんで参加できる「災害訓練」を考える」

「災害訓練」と一言で言っても状況によって様々な訓練があると思います。日頃の備えは大事なことです。しかし、訓練(練習)は“退屈”なものではないでしょうか。今回は、その訓練を「楽しいモノにできないか」「お祭りなどに加えて楽しくて永続できるモノにできないか」に的を絞って行きます。この街が日頃から災害を意識した地域、災害訓練を通じて交流ができる地域にしていきたいなあと考え、本会を開催します。

【司会進行】	平 良 治	(那覇市立若狭小学校 PTA 会長)
着席予定者	早 川 忠 光	(NPO 法人地域サポートわかさ 理事長)
	宮 城 潤	(NPO 法人地域サポートわかさ 公民館事業部長)
	吉 田 洋 史	(那覇市立泊小学校 PTA 会長)
	吉 田 修	(那覇市立曙小学校 PTA 会長)
	国 吉 正 人	(那覇市立天妃小学校 PTA 会長)
	国 場 美 穂	(那覇市立那覇小学校 PTA 会長)
	糸 数 武	(若狭小学校区まちづくり協議会 会長)
	我那覇 生吉	(若狭めもと自治会会長)
	与那嶺 隆直	(若狭市営住宅自治会会長)
	玉 城 成 男	(前島三丁目自治会会長)
	岸 本 麗 子	(若狭一丁目自治会会長)
	上 原 廣 保	(若狭二丁目自治会会長)
	池 原 達 也	(若狭三丁目自治会会長)
	南 眞 人	(若狭児童館館長)
ゲ ス ト	小野寺 克浩	(宮城県仙台市出身)
	上 原 玲 子	(宮城県出身 沖縄菫の会)
	與古田 思信	(那覇市立若狭小学校校長)
	真栄里 憲一	(那覇市市民防災室)

※一部変更する場合があります。予めご了承ください。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、我が国の観測史上類を見ない規模の大震災であり、その地震やそれに伴う津波が東日本各地に甚大な被害をもたらしました。

本県・若狭地域でも、地震や津波がいつ発生してもおかしくない状況ではないでしょうか。

東日本大震災以降、災害に対する関心は高まっているものの、実際、海拔低的那覇西湾岸地区で遭遇した場合、どうすればいいのか不安に思っている子どもたちや先生方、保護者・地域住民も多いはずで。

今回は、ゲストに被災地から二名それぞれから那覇市市民防災室職員が参加予定です。東日本大震災経験からの避難に関する課題点や那覇市の取り組みなどを伺った上で、提示されたテーマに対する課題の解決を目指して議論します。

多くの尊い人命が失われた東日本大震災から 4 年。私たち一人ひとりが日頃から取り組むべきことは何か。勉強会を通じてあらためて考えてみませんか。

3. 特別なニーズのある子どもへの学習支援の
実施に係る事項

地域における学習支援の実施【取組 2】

■取組 2—「多様な主体の参画で実現する放課後等の支援の充実」についての研究

地域NPO・公民館・大学生・地域企業などの多様な主体が参画・協働し、特別なニーズのある子ども達への学習支援の充実を図ることのできる体制構築を行う

本研究においては、那覇市若狭公民館を拠点とした地域をモデル地域とし、地域課題解決に取り組もうとする地域NPO・公民館等の社会教育施設・大学(大学生)・地域企業等がそれぞれの役割を持ちながら連携して取り組む「放課後の学習支援の在り方」について実施・検証する。

◆【取り組みの概要】

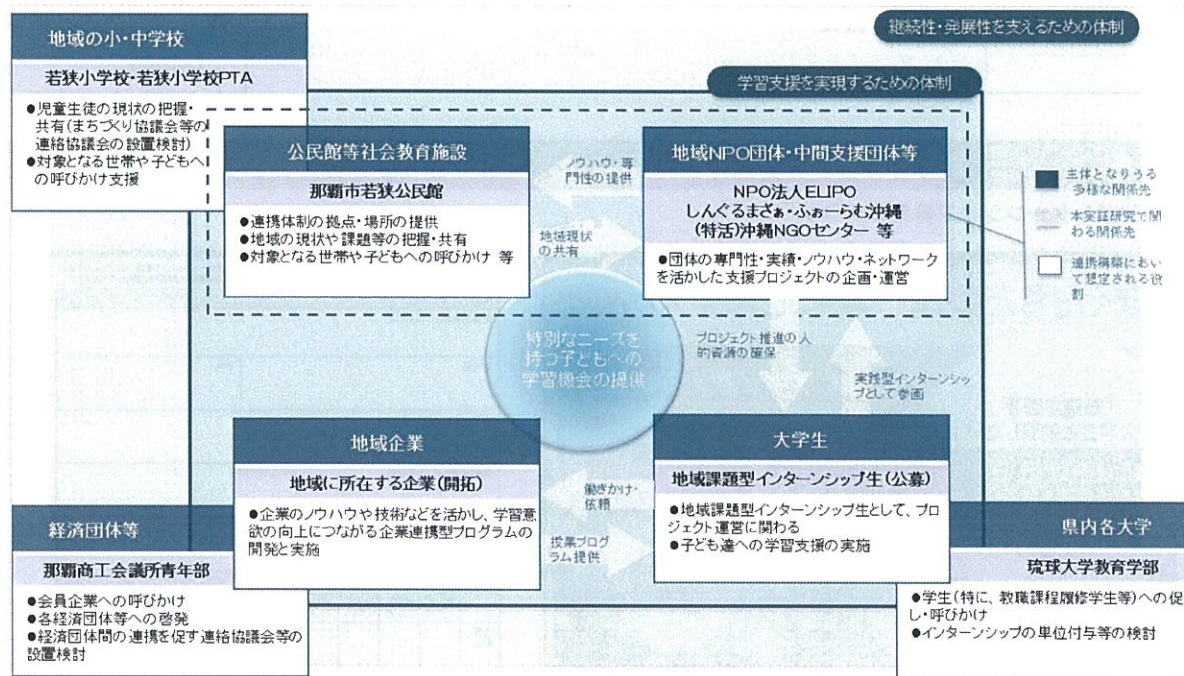
○モデル地域—那覇市若狭公民館を拠点としたエリア

○実施する取組内容—英語・算数等を中心とした放課後の学習支援

(ドリル学習等の他にも、地域企業等と連携して学習意欲を高めるための授業プログラムも開発し実施)

○対象—社会環境や保護者等の事情により学習支援を必要とする特別なニーズのある子ども

◆【モデル地域における多様な主体の主な役割と連携イメージ】



※大学生については、地域課題型インターンシップ生として参画する形をとるが、これについては後述【取り組み3】において詳細を記す。

◆【取り組み・実証のプロセス】

時期	実施内容	関わる主体
10月	公民館と地域NPO等の協働協議 ○地域課題の共有と取り組みの方針の決定 (地域課題をベースにした対象者、取組テーマ)	・公民館 ・地域NPO等団体 ・学校
10月中旬～ 11月上旬	大学生インターンシップ生の募集 ○「取組テーマ」に合わせ大学生インターンシップを募集	・公民館 ・地域NPO等団

	○各大学等との連携で募集	体 ・大学・大学生
11月上旬	大学生インターンシップと地域NPO等団体のマッチング ○マッチングイベントを実施	・地域NPO等団体 ・大学生 ・公民館
11月上旬～ 11月中旬	学習支援内容等の企画（大学生インターンシップスタート） ○地域NPO団体と協議の上、大学生が支援内容を企画 ○地域企業などに働きかけ「地域企業連携型授業プログラム」開発	・大学生 ・地域NPO等団体 ・地域企業 ・公民館
11月中旬～ 1月下旬	学習支援の実施 ○公民館を拠点に各「取組テーマ」の学習支援を実施 ※支援の頻度等については各NPO団体等と公民館と相談の上決定	・大学生 ・地域NPO等団体 ・
2月	振り返り ○取り組みの評価（成果・課題等の抽出・分析） ○成果報告会	・大学生 ・地域NPO等団体 ・公民館

募集について

[学生インターンシップ募集のチラシ]

ぼくたちと宿題一緒にしませんか？

「勉強が苦手」「大学生と勉強したい」

大学生が教える勉強会
小学校高学年・中学生対象/無料

楽しみながら！
でも一冊懸命
勉強しよう！

大学生の
「勉強の仕方」
を伝授

大学生活や
受験の話なども
聞ける

個別学習支援
学校の宿題を
一緒にできる！

塾には行ってないけど
誰かに勉強を教わりたかった(´▽`)/！
という小学4年生～中学生、
待ってます！

- 場所 若狭公民館
- 日時 12月19日～2月の毎週金曜19時～20時(休校時を除く)
約3か月間の全10回！
- 参加方法 電話かメールでお申込みください。
【電話】098-917-3446(若狭公民館)
【メール】yumokama@ocean-21.co.jp
なまえ・学校名・学年・電話番号を添えて下さい。

「地域の子どもは地域全体で育てよう」という思いをもち、地域公民館・大学・地域NPO・学校などの連携により、地域の子ども達の育ちを守る取り組みの一環です。

※資料の送付先住所は必ず、保護者の方の住所とお迎えのご協力が必要になります。
お申し込みお返事ができない日が一時的に発生する場合がございます。

平成26年度文部科学省事業「学校と地域の新たな協働体制構築のための実証研究事業」
協働事業：沖縄教育協働研究推進委員会・若狭公民館・学生団体IKAROS

学習支援参加申込み書

①まずはお電話かメール(オモテ記載)でお申込み下さい。
②この申込み書は学習支援参加日に提出してください。

■記入事項										
児童生徒氏名(ふりがな)										
学校名							学年			
住所										
保護者連絡先(携帯電話)							本人との関係()			
保護者連絡先(携帯メールアドレス)										
■出席確認 ※出席できない週がありましたら、×をつけてください。										
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週
	12/19	12/26	1/ 9	1/16	1/23	1/30	2/ 7	2/14	2/21	2/28
学習参加										
保護者記入欄										
■その他(ご質問などありましたら、ご記入ください。)										
保護者確認表										
保護者として上記の記入事項に間違いがないことを確認し、学習支援への参加を承諾します。										
保護者名(自筆)										印

◆周知・配布方法：

近隣小学校2校・中学校2校において
対象学年児童生徒へ配布

[応募した児童生徒の学年分類]

◆小学校	4年 名	5年 名	6年 名
◆中学校	1年 名	2年 名	3年 名
◆合計	名		

学習支援実施の様子

第1回

◆児童生徒数	◆IS数	◆学習支援計画（主な内容）
小学生 22名 中学生 4名	10名	○オリエンテーション（IS自己紹介※新任教師になりきって） ○学習支援（各自持参の宿題）

◆新たに取り入れたこと

- 3～4名児童生徒—1インターン生体制
- 10グループで実施
- 新任教師になりきった自己紹介

◆気付いたこと・課題など

- 思った以上に参加者が多く、教室を分ける必要がある
- 学習時間が足りなかった（60分）
- 小、中学生で教室を分けるx



第2回

◆児童生徒数	◆IS数	◆支援計画（主な内容）
小学生 22名 中学生 8名	9名	○子供たちへのアンケート ○学習支援（各自持参の宿題）

◆新たに取り入れたこと

- アンケートをととして子ども達の現状を把握
- 小、中学生で教室を分けた
- 休み時間（10分）の導入
- プログラム全体の時間を90分に変更

◆気付いたこと・課題など

- 担当する子ども達を事前に把握したい
- 休み時間の使い方が曖昧
- 教えたい教科を教えられない



第3回

◆児童生徒数	◆IS数	◆支援計画（主な内容）
小学生 21名 中学生 7名	7名	○学習支援（各自持参の宿題、苦手克服）

◆新たに取り入れたこと	◆気付いたこと・課題など
○学習支援の時間（90分）を宿題の時間（40分）、休み時間（10分）、苦手克服の時間（40分）とした ○IS生向けの事後研修内での講師による講演 講師：佐渡山要（学習環境補助カイカ堂 主宰）	○時間を明確に二つに分けたのは良かったが、もう少しその時間配分をIS生に意識させる必要がある ○子供たちの苦手を探る必要がある




第4回

◆児童生徒数	◆IS数	◆学習支援計画（主な内容）
小学生 23名 中学生 4名	10名	○学習支援（各自持参の宿題、苦手克服）


◆新たに取り入れたこと	◆気付いたこと・課題など
○事前にIS生に目標を明確に設定させ、事後で振り返る	○小学生には鉛筆使うように指示するべきか ○中学生で理系、文系でIS生を分けて担当したほうがいい



第5回

◆児童生徒数	◆IS数	◆支援計画（主な内容）
小学生 24名 中学生 8名	9名	○学習支援(各自持参の宿題、苦手克服)
◆新たに取り入れたこと		◆気付いたこと・課題など
中学生を教科ごとに分ける IS生向けの事後研修でディスカッション「叱り方について」		このインターン内でのIS生の立場があやふや(例:子どもたちにどの程度まで叱っていいのか)
		

第6回

◆児童生徒数	◆IS数	◆支援計画（主な内容）
小学生 22名 中学生 3名	9名	○IS生による5分間スピーチ(対象は小学生のみ) ○学習支援(各自持参の宿題、苦手克服)
◆新たに取り入れたこと		◆気付いたこと・課題など
IS生による5分間スピーチ IS生向けの事後研修内での講師による講演 講師: 翁長有希(NPO 法人沖縄キャリア教育学習支援ネットワーク)		学年が違う小学生を一つの教室で落ち着かせる必要がある IS生によって子供たちの反応が大きく違う
		

第7回

◆児童生徒数	◆IS数	◆学習支援計画（主な内容）
小学生 23名 中学生 5名	9名	○IS生によるオリジナル授業(小・中で別々での授業)

◆新たに取り入れたこと	◆気付いたこと・課題など
○小学生の部では、貿易体験ゲームを通して、発展途上国と先進国での貧富の差を体験させた。 ○中学生の部では、農業体験ゲームを通して、農業経営の難しさを体験させた。	○宿題をやる時間を確保できない ○受験生への配慮




第8回

◆児童生徒数	◆IS数	◆支援計画（主な内容）
小学生 23名 中学生 5名	9名	○IS生によるオリジナル授業(小・中で別々での授業)

◆新たに取り入れたこと	◆気付いたこと・課題など
○小学生の授業では、テーマをディスカッションとして、接続詞のカードを活用した。 ○中学生の授業では、海の生き物を紹介した。	○学年によってディスカッションのレベルに差があることを考慮できていなかった。 ○教える人が好きな分野であればあるほど、楽しく教えることができることに気付く。



第9回		
◆児童生徒数	◆IS数	◆支援計画（主な内容）
小学生 23名 中学生 4名	9名	○IS生によるオリジナル授業(小・中で別々での授業) ○お別れ会
◆新たに取り入れたこと		◆気付いたこと・課題など
○小学生の授業では、部首から漢字を思い出す漢字ゲームに取り組んだ。 ○中学生の部では、古文の百人一首にと取り組んだ。 ○最後にはお別れ会を開きました。		○競い合うことで勉強への意欲を引き出した ○ゲームを取り入れる際に必要な道具等の準備が不十分であった。
		

◆学習支援を通して
学習支援を通しての変化
IS生にも、子供たちにも、良い変化が見られました。IS生からは、「教える側がしっかりと理解していないといけない」、「自分の伝えたいことを子供たちにわかりやすく伝える力が身についた」など、これからは生かすことができる経験を得られたとの声があった。子どもたちは、宿題に向かう姿勢が良くなったことや、難しい問題から目をそらさず、大学生に全力で質問していく姿勢が見られたことから、宿題や苦手教科への勉強意欲の向上を見ることができた。
IS生によるオリジナル授業を通して
IS生にとっては、自分が一番教えた科目に興味を持ってもらえるような授業をする経験になった。ほとんどの授業がゲーム形式だったため、子どもたちにとっては、友達と競いながら嬉しさや悔しさを味わう経験になった。受け身の授業ではなく、自分から動く授業を展開することによって、勉強に対しての見方や意欲に良い変化が見られた。

4. 大学生インターンプログラムの実施に係る 事項

大学生インターンシッププログラムの実施に係る事項【取組 3】

■取組 3—連携体制構築を支える「地域課題解決型大学生インターンシップ」の研修カリキュラムの開発 大学生(特に教職志望学生)に対する『地域課題解決型教育インターンシップ』のインターンシッププログラムを公民館や地域課題解決をテーマにしたNPOと共に開発

近年、社会環境の変化等に起因しこどもを取り巻く課題なども多様化する中、これらの課題への対応を学校だけに任せるのではなく「地域のこどもは地域で育てる」ための気運作りが進められ、学校においても「開かれた学校」「学者融合」「キャリア教育」などをキーワードに、学校と地域人材・地域企業などとの連携が推進されているが、教職志望の学生らが教員になる以前にこれらの地域課題やステークホルダーとなる団体等と連携した活動に触れる機会はほとんどない。社会全体の傾向として、職業やはたらき方の多様化の傾向を受け、インターンシップも様々な形態が生まれる中、本事業では、大学生らが公民館などの社会教育施設やNPOなどと連携して地域課題に取り組む『地域課題解決型教育インターンシップ』のインターンシップカリキュラムを開発、

この研修プログラムの開発により、大学や大学生にも本事業で検証する「多様な主体が参画する連携体制」に対する参画の意義を創出することができ、より多くの大学や大学生の参画を促すことが可能となる。また、一般的に地域課題等をテーマにしたNPO法人や団体などは恒常的にマンパワー不足などの悩みを抱えており活動の幅を広げられない現状が見られるが、教育に興味のある大学生を人的資源として活用できることでこれらの課題解決にもつながる。団体にも大学生にもウィンウィンな関係性を創り出すことにより、連携の円滑化を図る。

募集について

[学生インターンシップ募集のチラシ]



道に立つ前に
「がの
けな
こと
がある

文部科学省事業
「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」
学校と地域が連携した新しい形の教育支援インターンシップ

学生インターンシップ募集！！

- ◆配布部数：200部
- ◆周知・配布方法：
 - ①県内大学の学生団体等へ協力依頼
 - ②フェイスブック等での発信
- ◆応募者数：10名

教育実習では得られない**貴重な体験**ができる！
これからの**教育**に必要なことがリアルに学べる！！

インターン生自らが授業を考える、チームで取り組むから心強い
今教育現場で求められる「地域連携型の授業(キャリア教育)」づくりが学べる
少人数制だから、生徒一人一人と向き合える
冲縄初の文部科学省事業

募集要項
仕事内容：小中学生の放課後学習支援、授業内容の企画
募集対象：将来教育関係に進みたいとお考えの方
参加資格：県内大学生なら誰でもOK
勤務場所：若狭公民館(交通費支給)
勤務日時：12月～2月の毎週金曜17時～21時(年末年始除く)
参加方法：メールにてご応募ください

【件名】「放課後学習プログラム参加希望」
【本文】氏名、大学名、学部名
以上の内容11月21日までに送ってください。

11月29日(土)
キックオフセミナー
開催！

学生団体IKAROS 担当:原田明久
akihisa.hilljanire@gmail.com
050-8566-9110

主催:平成28年度文科省事業
「学校と地域の新たな協働体制構築のための実証研究事業」
沖縄教育協働研究推進委員会

[インターンシップ参加学生の属性・志望動機等]

番号	所属大学	学部・学科	学年	性別	教職希望	志望動機
1	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	女	小学校	以前から学習支援のボランティアを探していた。
2	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	男	小学校	実際に子供・児童と接する経験が無い為、「教育」に関わるという実感がほしい
3	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	男	小学校 幼稚園	今まで自分が経験したことのないもの、特に教育関係のものを多くやってみたいと考えて参加を決めました。
4	琉球大学	法文学部人間科学科	1	男	中学校	様々な授業を持つことを経験し、授業外でも生徒とコミュニケーションを取る機会を得たいと考えていた。
5	琉球大学	理学部海洋自然学科	1	男	なし	面白そうだから。
6	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	女	小学校	地域の人々とともに子供たちを育てるということにきょうみがあるから
7	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	男	小学校	将来に役立てるため
8	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	女	中学校	日頃から子供と関わる機会が少ないので将来に役立つと思ったから
9	琉球大学	法文学部国際言語文化学科	1	女	中学生	教職の授業で聞いて面白かったから
10	琉球大学	法文学部	1	女	中学生	将来の夢を叶えるために役立つと思ったから
11	琉球大学	観光産業科学部産業経営学科	1	男	なし	地域と学校と大学生を繋げるプロジェクトに興味を持ちました。
12	琉球大学	観光産業科学部産業経営学科	1	男	なし	小、中学生の新しい放課後の居場所を作りたい。
13	琉球大学	観光産業科学部産業経営学科	1	男	なし	既存とは違った形での学習支援を考えたいと思った。
14	琉球大学	工学部機械システム工学科	1	男	なし	子ども達の学習意欲の向上に貢献したい。

インターンシップカリキュラム開発と実施について

◆[インターンシッププログラム(研修プログラム)(案)]

事前研修		
事前研修① 11/29	学習支援の必要性と基礎の理解 ① 本プロジェクトの趣旨・内容の理解 ② 学習支援にむけての「基礎」の理解	① 学生団体 IKAROS ② NPO 学習環境補助カイカ堂 主宰 佐渡山要
事前研修② 12/12	児童生徒の現状の理解(ディスカッション) ① 沖縄の学力について考える ② 学習支援の在り方について考える	学生団体 IKAROS
定例研修 ▶毎週の学習支援終了後に振り返りも含め実施(約1時間半)・一部外部講師招聘		
毎回振り返り	※毎週の学習支援の状況を振り返る (全10回約1時間半)	学生団体 IKAROS
特別研修 1/16	「学習支援者」としての在り方・考え方の理解 ○学習支援を実施して感じた課題の把握 ○アドバイザーと課題解決にむけたディスカッション	NPO 学習環境補助カイカ堂 主宰 佐渡山要
特別研修 1/23(仮)	地域資源を活用した授業プログラムの作り方 ○「学び」と「社会」をつなぐ地域連携型授業の理解 ○学力向上との関係性	NPO 法人沖縄キャリア教育学校 支援ネットワーク 代表 翁長有希
特別研修 2/7(仮)	学校の現状の理解と「学習支援」の必要性 ○学校の理解・児童生徒の現状 ○学習支援に求めたいこと	(仮)那覇市立若狭小学校 校長 ※これから依頼
特別研修 2/21(仮)	「地域」の理解と地域課題解決の視点 ○公民館の役割と地域の理解 ○学校と地域の連携における地域課題解決の展望	(仮)若狭公民館 宮城潤 ※これから依頼
アドバンス研修 ▶地域の保護者向けセミナーとの合同開催		
アドバンス研修 1/18(日) 15:00-16:30	塾いらずの高校入試対策と理解 ・今どきの小学生・中学生の理解 ・高校入試に必要なこと	NPO 学習環境補助カイカ堂 主宰 佐渡山要
アドバンス研修 1/25(日) 15:00-16:30	家庭での子ども学習支援 ・家庭教育に必要なこと ・「まなび」の階段(守破離)	NPO 学習環境補助カイカ堂 主宰 佐渡山要
アドバンス研修 2/7(土) 15:00-16:30	子育てお母さんの困った時の裏ワザガイド ・ケース会議 ・地域でできること	NPO 学習環境補助カイカ堂 主宰 佐渡山要 神森小学校 具志憲人
事後研修		

STEP9 事後研修 2月	【活動】 取り組みの成果検証と成果報告 ○アンケート等の集計・成果の検証 ○成果報告会による実践成果報告	・大学生
---------------------	--	------

平成 26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

研修記録

○研修名	大学生インターンシップ [スタートアップ研修]
○日時	平成 26 年 11 月 29 日 (土) 10:00-18:00 (1 時間休憩)
○会場	沖縄産業支援センター4F OCEAN21 研修室

会議次第

【第 1 部】 オリエンテーション

- ・ 本事業関係者の紹介
- ・ インターンシップ生の自己紹介 (新任教師になりきって)
- ・ 調査書の記入

【第 2 部】 講義 「塾現場からの学習補助の事例紹介」～人見知りの講演会～

講師：NPO 学習環境補助カイカ堂 主宰 佐渡山要

【第 3 部】

- ・ インターンシップ事業内容説明
- ・ [ディスカッション] 講演会を聞いての感想
- ・ [まとめ] 「なぜ今、学校と地域の連携か」～社会背景から本インターンシップの意義の確認～
講師：NPO 法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク 代表 翁長有希

配布資料

■講師資料

- [資料 1] 学習環境補助カイカ堂「学習アシスタント養成講座」概要
- [資料 2] 【参考資料】『第 7 回九州沖縄地区子ども支援ネットワーク交流学習会』配布資料
- [資料 3] 【参考資料】『おきなわ子ども支援ガイドブック』(2013 年那覇市版)
- [資料 4] 【参考資料】『NPO 学習環境補助カイカ堂だより』(第 1 号)

研修内容詳細

【第2部】講義

【流れ】

起：前提条件確認（自己紹介と参加動機確認、セミナーの目的共有）

承：課題定義（事業背景とイメージアニメ）

転：事例紹介（六要素とアシスタント養成講座の解説）

結：まとめ、質疑応答

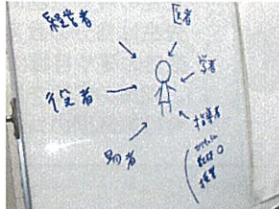
【内容】

① 塾経営の経験から

- ・09年の教育業界の状況→少子化、母子家庭25%、教育従事者約二万人（産業統計資料）
- ・塾四年目からの変化→母子家庭の増加、会費を払えなく通塾を断念される生徒の増加、学習障害児の増加
- ・塾五年目からの取組→NPO設立、発達障害の実情調査、高齢親とひきこもり者の社会復帰、早期療育と教育
- ・今後の事業イメージ→通塾が困難な児童生徒へ学習環境の提供（イメージアニメ紹介）

② 学習支援に役立つ考え方や理論

- ・学習環境提供する為に必要な6要素（医者、学者、指導者、易者、役者、経営者）
- ・効き脳チェックとアウトプットインプットの違い確認、VAKモデルによる学習効果向上のヒント紹介
- ・できない生徒の特徴と対策→テスト対策ケア

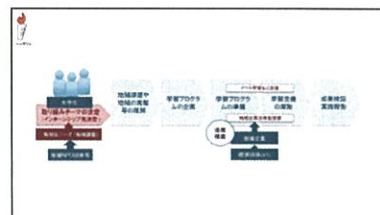


【第3部】事業内容の共有とディスカッション

[事業プログラム内容の説明]

学校と地域の
新たな連携体制構築のための
実証研究事業

事業のねらい
「地域子どもたちは**地域**で育てる」
「開かれた学校」



子ども
サポート
若狭公民館 協力 大学生

インターン生にとってのねらい
・生徒一人一人と向き合う時間
・自ら授業内容を考える機会
現在の教育実習では得られない経験



[学習支援の流れなどの説明]

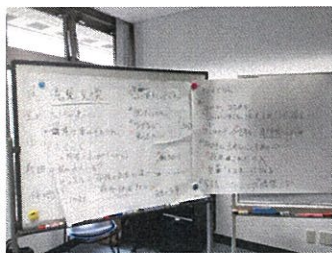
場所 若狭公民館研修室
日時 12月12日、9日
1月9日、16日
1月23日、30日
2月6日、13日
2月20日、27日
全て 19:30～21:30
服装自由
※自身が「学校の先生はこれだ」と思う服装で参加してください。

12-12
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回
①
第6回 第7回 第8回 第9回 第10回
②
①主に生徒の学習サポート、コミュニケーションをとる。
②インターンシップ生が授業を作成する。

これからの**インターンシップ**を通して**実践し**、
将来の糧にしてください！！

[ディスカッション]

[テーマ1] 今日の研修の内容について



- ・学校の先生は塾の先生と違い、生徒を数字で評価する為に嫌われることが多いという意見もあるが、それが先生の仕事だと思う。
- ・実際に自分たちが受験生のころを思い出して、自分が経験した勉強や暗記のやり方について意見交換をした。
- ・生徒に依存されるのではなく、「先生がいなくなっても大丈夫」を目指すべき。
- ・教師にはできないこともあり、専門の人に頼ることも必要。
- ・宿題は時間の無駄になる可能性が高い。

[テーマ2] 今までの先生、これからの先生



- ・なりたい先生の理想像は、自分が今まで出会った先生の中から作られていくのではない。
- ・一人一人を主役にして、自分の得意なことなど、自分自身のことを知ってもらう機会を作り、子供たちに自信を与える先生を目指したい。
- ・生徒の経験を認めてあげる先生を目指したい。
- ・先生は自分の教える教科の専門性を高める経験（留学等）を積むべき。
- ・生徒の夢や目標に「無理」と言わない先生を目指し、夢を持たせてあげたい。職業の情報を提供して、夢を探しやすい環境を作ることが大切。
- ・今は教師間のコミュニケーションが減っているのではない。

アンケート集計結果

Q1、教育職員免許状を取得する予定ですか。(回答者5人)

- ◆はい 4人 ◆いいえ 1人

Q2、Q1で「はい」と答えた方に質問です。取得しようと考えている教員免許の種類をお答えください。(複数回答可)

- ◆幼稚園 1人 ◆小学校 3人 ◆中学校 1人

Q3 このプログラムに対する意気込みをどうぞ。

- ・小学校の先生になりたいと思いつつも日常生活で子どもと接することはほとんどなくて、正直自分が先生に向いているかどうか自信はないです。でも、人と関わっていくことは好きなので、このプログラムで出会える子ども達や他のメンバーともいい関係が築けたらいいと思っています。
- ・多くの失敗があると思いますが、改善していこうと考えていますので、よろしくお願いします。

Q4 キックオフセミナーに参加して、インターンシップについての理解が深まったと思いますか？(回答者4人)

- ◆とても思う 2人 ◆思う 2人 ◆どちらともいえない 0人 ◆思わない 0人 ◆全く思わない 0人

Q5 インターンシップについてわかったことについてお書きください。

- ・文部科学省がどのような意思を持って取り組むプロジェクトかというのを理解した。
- ・学校と地域を繋ぐということの意味・時代の流れに合わせた教育をしていかなければならない。そのきっかけになるプロジェクトであるということが理解できた。

Q6 今回の講演会の感想をお書きください。

- ・今後役に立つ話が多かった。「一人に対し、六人の支援が必要であること」「付かず離れず、支援を断ち切る」という言葉に驚いた。助けを求められると全力で何もかもやってあげたい気持ちになるけど、それではいけないのだと思った。「テストの返却時に、できる生徒は“×”を見て、できない生徒は“○”を見る」というのは、中学から高校で、できる生徒からできない生徒にシフトした私にきれいに当てはまった。ワンコインの塾というのは、経済的にも生徒の勉強以外の成長にもとても役立つ場所だと思った。
- ・普段意識していなかった授業でのモデルや接し方など、初めて知ることが多くあった。話を聞く中で、自分が通ってきた学校の中ではそういった配慮は全くされていなかったなと思った。

- ・今回は、いろいろな教育への携わり方、特に塾の講師の目線からの考え方を学ぶことができた。特に、visual、listening、feeling の部分を見分けるのがとても興味深かった。
- ・今回の研修で、自分が将来どのような教師になるかの参考になると思った。「六人の支援」の話を聞いて、もちろん一人でやるには限界があるかもしれないので、多くの人の助けを求めたりしていきたい。

Q7 今回の講演会はあなたの望んでいた内容だと思いますか？(回答者3人)

◆とても思う 2人 ◆思う 0人 ◆どちらともいえない 1人 ◆思わない 0人 ◆全く思わない 0人

Q8 Q7の理由をお聞かせください。

- ・得るものが多かった。キャリア教育について理解が深まったように思う。
- ・教育者や子供の対応の仕方などを教えてもらい、これからの教育に重要なことだと感じる事ができた。

Q9 ディスカッションについての感想をお聞かせください。

- ・メンバーと意見を交換する中で、今の自分の考え方の立ち位置・意識を確認することができた。
- ・色々な人の話を聞いて視野が広がったけど、自分の意見を否定されたら、心がへこんでしまった。その意見も自分の考えに入れて強くなっていきたいです。
- ・実際に教員を目指している方々の意見・考え方を聞けたので、自分の中にも取り入れていきたい。

研修記録

○研修名	大学生インターンシップ [スタートアップ研修②]
○日時	平成 26 年 12 月 12 日 (金) 19:30 - 21:00
○会場	琉球大学附属図書館 グループ学習室

会議次第

【第 1 部】 オリエンテーション

- ・ 沖縄の学力の現状を把握 (全国学力・学習状況調査における過去五年分の沖縄県のデータ)

【第 2 部】 ディスカッション①「沖縄の学力について」

ファシリテーション: IKAROS

【第 3 部】 ディスカッション②「もし自分が教員になったら」

ファシリテーション: IKAROS

研修内容詳細

第一部

- ・ 全国学力・学習状況調査における過去五年分の沖縄県のデータを提示

第二部

第一部のデータをもとに「沖縄の学力について」のディスカッション



- ・ 最下位という順位を目にするとやる気がなくなる
- ・ 沖縄の子どもが遅くまで外にいる
- ・ 悲観的になる必要はないのでは？
- ・ 小学校の頃、沖縄の学力が低いことを知らなかった

第三部


「もし自分が教師になったら」というテーマでディスカッション




- ・ 子どもが好きな事に熱中する時間を取り入れたい
- ・ 集中力、楽しさを重視する
- ・ 勉強に対する一歩目を変えたい
- ・ 教師は待っている姿勢が望ましい

アンケート集計結果

- 1、本日の研修を終えて、新しい気づきがあれば教えてください。
 - ・ なかなか他の教員志望の人たちとディスカッションする機会がなかったので貴重な経験になった。
 - ・ インターンに対する意識が高まった
- 2、本日の研修の中で、印象に残った言葉を書いてください。
 - ・ 「ななめの関係」。教員でもなく、親でも先輩ない関係とは何だろうと思った。
 - ・ 「学力問題」。現場の意識と自分たちの意識に差を感じた。




事業プログラム説明



事業のねらい

「地域の子どもたちは地域で育てる」


「開かれた学校」



学校と地域の

新たな連携体制構築のための

実証研究事業




子ども

サポート

協力


若狭公民館

大学生




今回のインターン

全国の先駆け



これからの
モデル




インターン生にとってのねらい

- ・生徒一人一人と向き合う時間
- ・自ら授業内容を考える機会

現存の教育実習では得られない経験



日程等について



場所 若狭公民館研修室

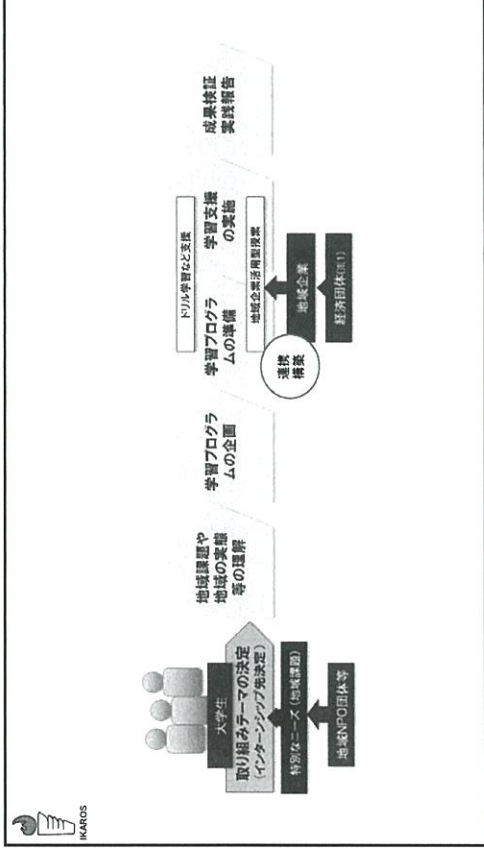
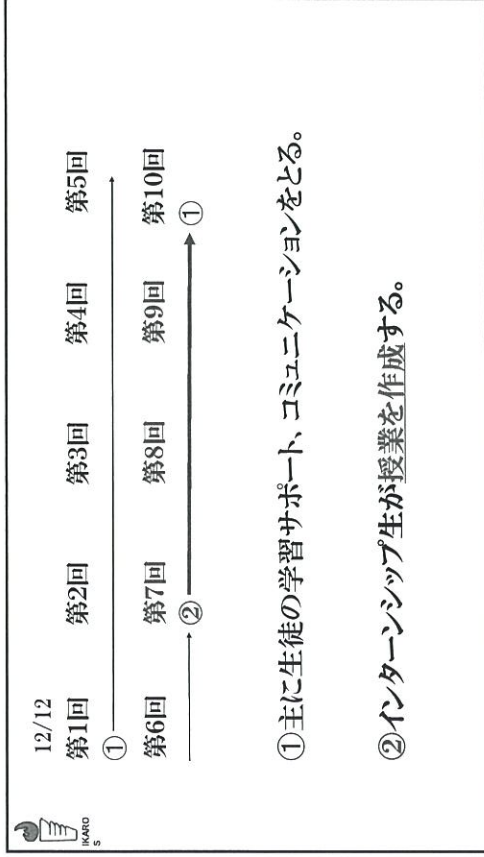
日時

※駐車場はありませんの付近の有料駐車場に止めてください。その際、領収書を保管してください。

12月12日、9日	全て
1月9日、16日	19:30～21:30
1月23日、30日	
2月6日、13日	
2月20日、27日	

服装自由

※自分が「学校の先生はこれだ」と思う服装で参加してください。



これからの **インターンシップ** を通して **実践し**
将来の糧 にしてください!!

ぼくたちと勉強しませんか？

大学生が教える勉強会

小学校高学年・中学生対象/無料

「勉強が苦手」
「大学生と勉強したい」

塾には行ってないけど
誰かに勉強を教わりたかった(^ ^) / !

という小学4年生～中学生、
待ってます！

大学生の
「勉強の仕方」
を伝授

大学生生活や
受験の話なども
聞ける

- 場 所：若狭公民館
- 日 時：12月19日～2月の毎週金曜17時～21時(年末年始除く)
約3か月間の全10回！
- 参加方法：電話かメールでお申込みください。
【電 話】 098-917-3446 (若狭公民館)
【メー ル】 yumekanae@ocean-21.co.jp
なまえ・学校名・学年・電話番号を送って下さい。

★分からないこと・聞きたい事などありましたら、
お気軽にお問い合わせください！

平成26年度文科省事業「学校と地域の新たな協働体制構築のための実証研究事業」
協働事業：沖縄教育協働研究推進委員会・若狭公民館・学生団体IKAROS